

令和5年度 環境放射線測定結果

(令和5年4月～令和6年3月)

令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）

環境放射線測定結果

① 測定所での監視

1. 空間放射線空気吸収線量率
2. 浮遊じん中の全 α ・ β 放射能

② 環境放射能測定車、環境放射線調査車での監視

1. 環境放射能測定車による測定
2. 環境放射線調査車による測定

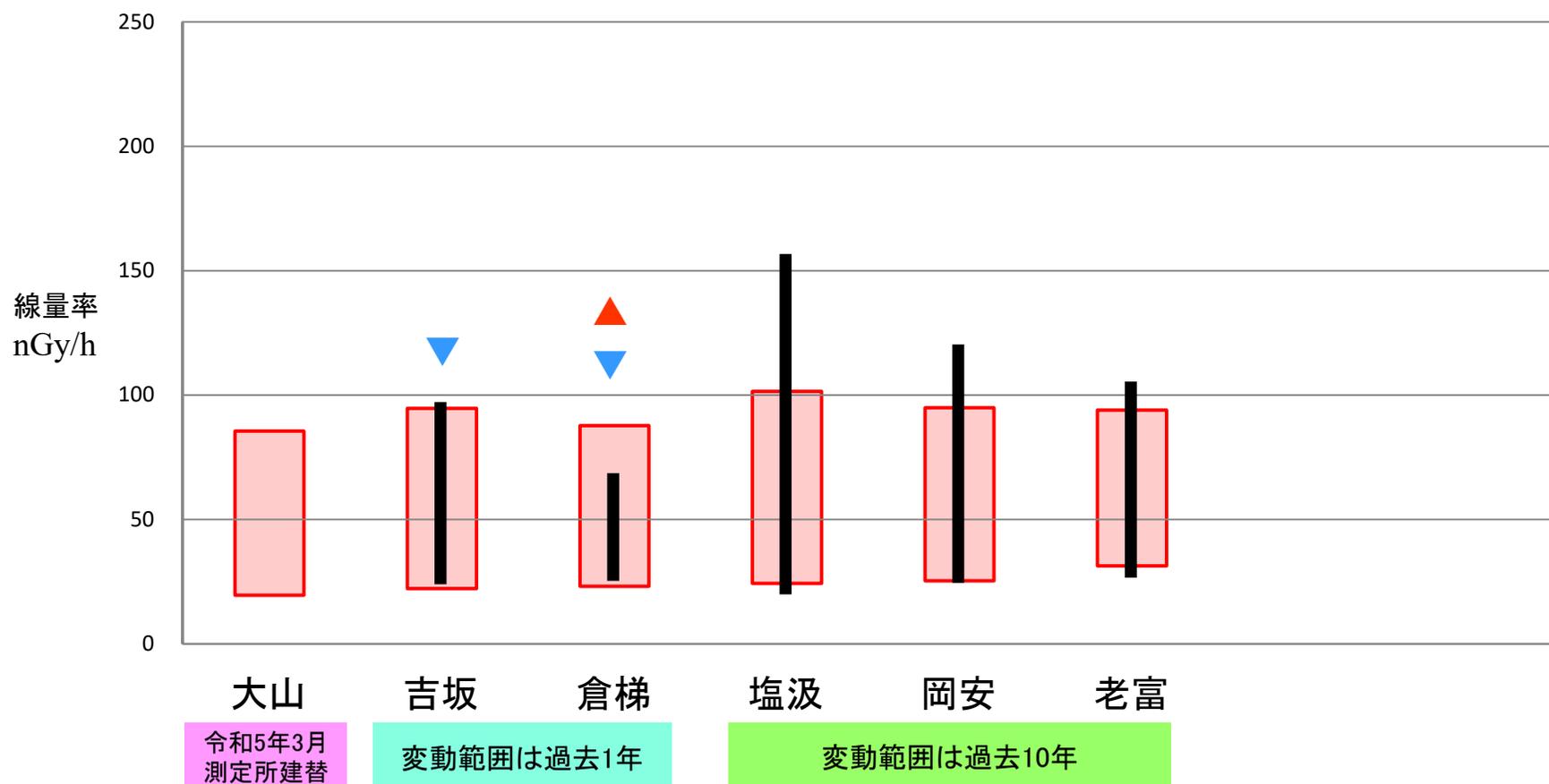
③ ガンマ線放出核種分析、トリチウム、プルトニウム、ストロンチウム分析結果

空間放射線空気吸収線量率 測定結果

- 11箇所の測定所で過去*の変動範囲を超過し、他は過去*の変動範囲内でした。
- 線量率の過去*最大値超過は全て降雨雪等に伴うものと考えられる。（*過去=10～1年）
（スペクトルに人工放射性核種が認められない）

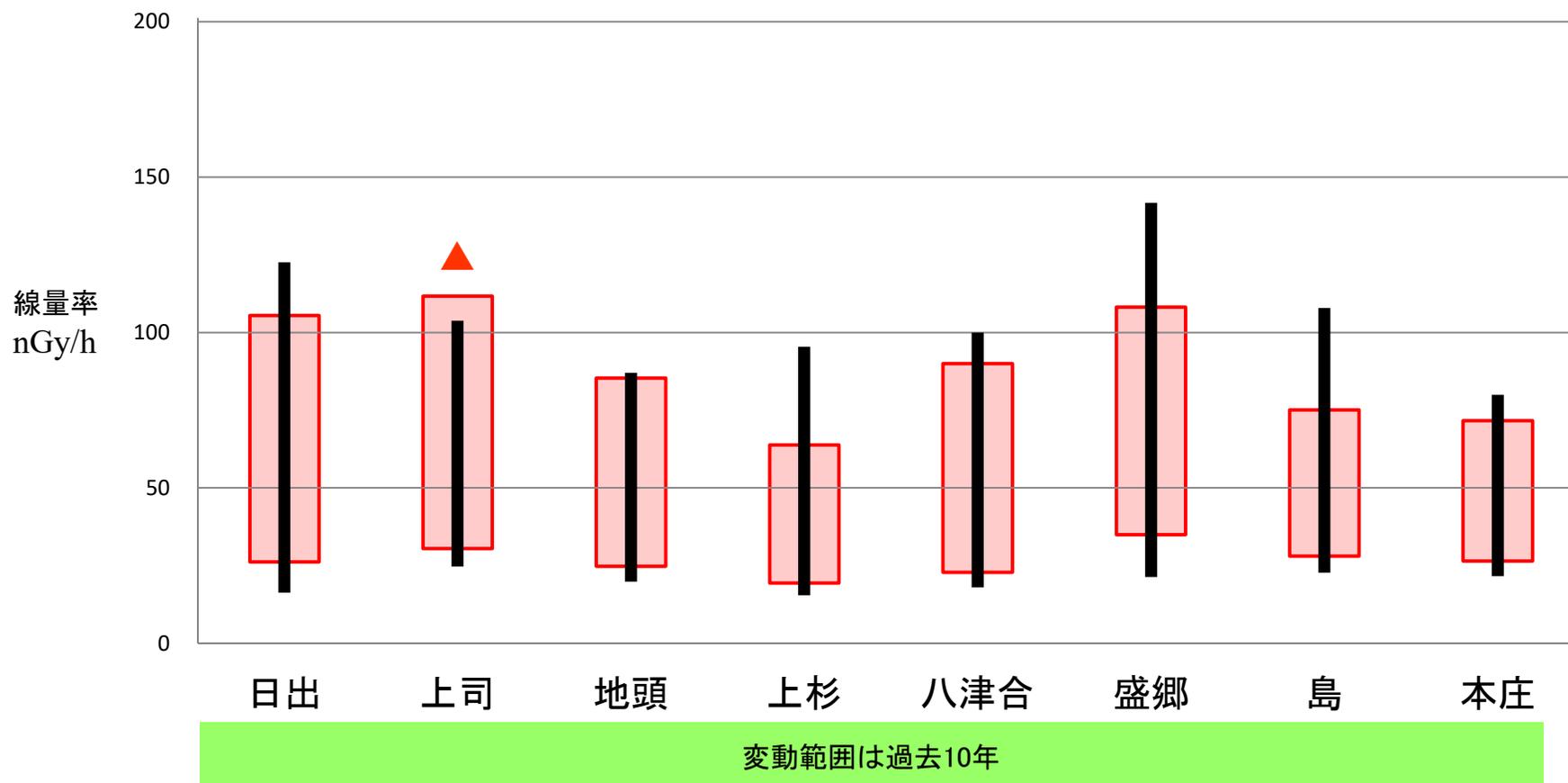
（資料3 - 2 p.1-11）

周辺局(1/2)



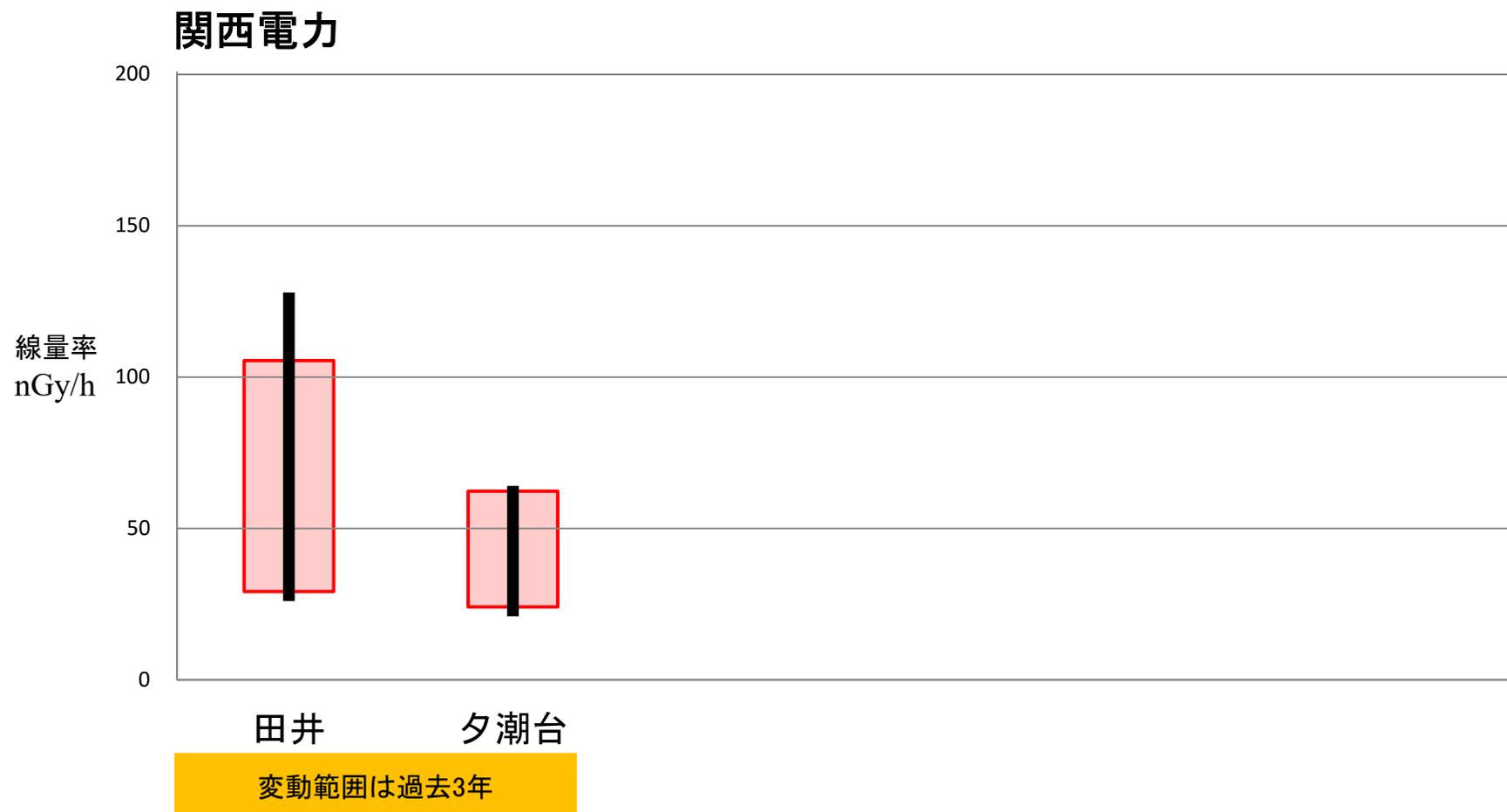
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大~最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大~最小。
 三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

周辺局(2/2)



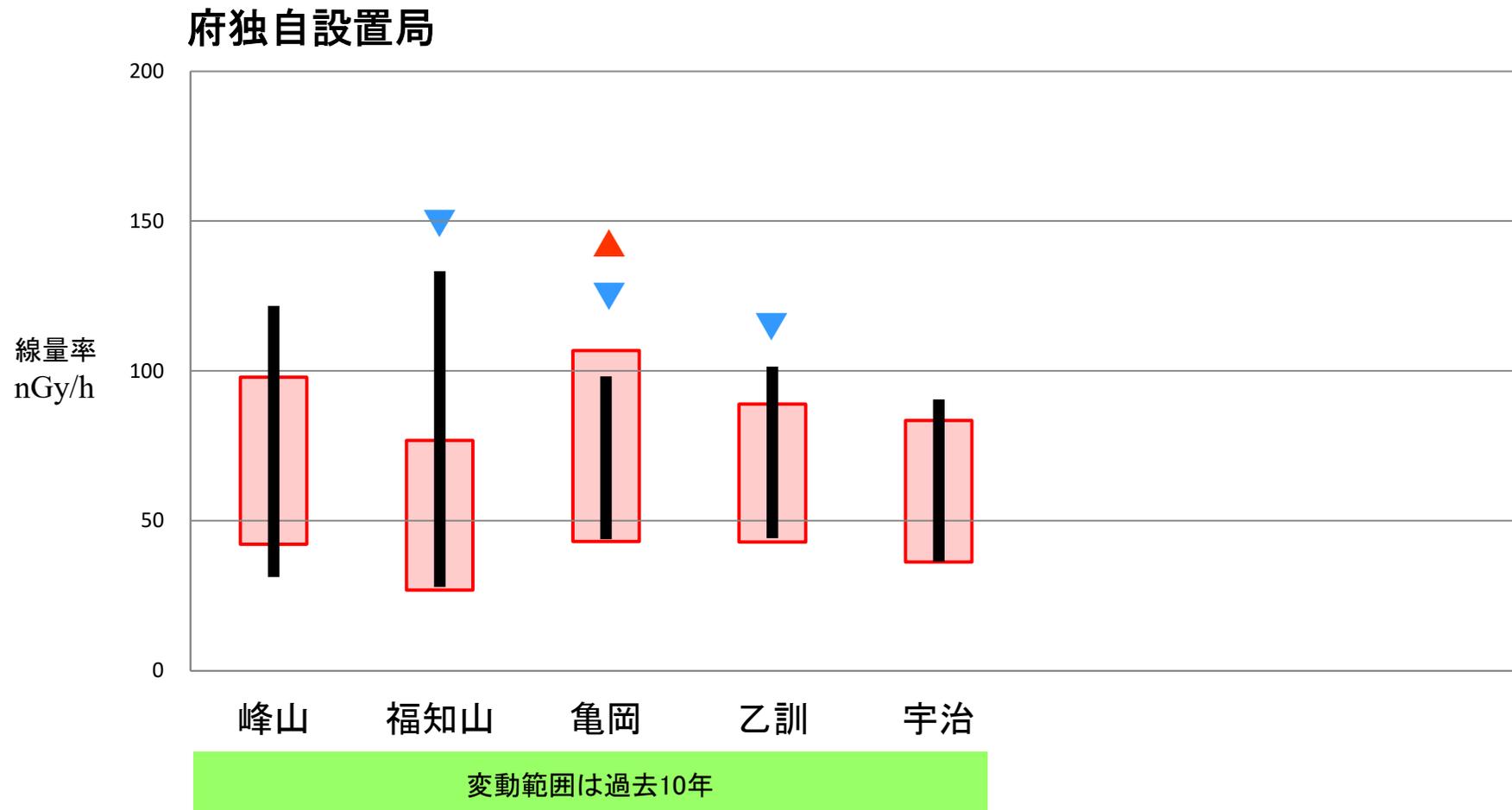
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
 三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

空間放射線 空気吸収線量率 測定結果（令和5年度）／関西電力



赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

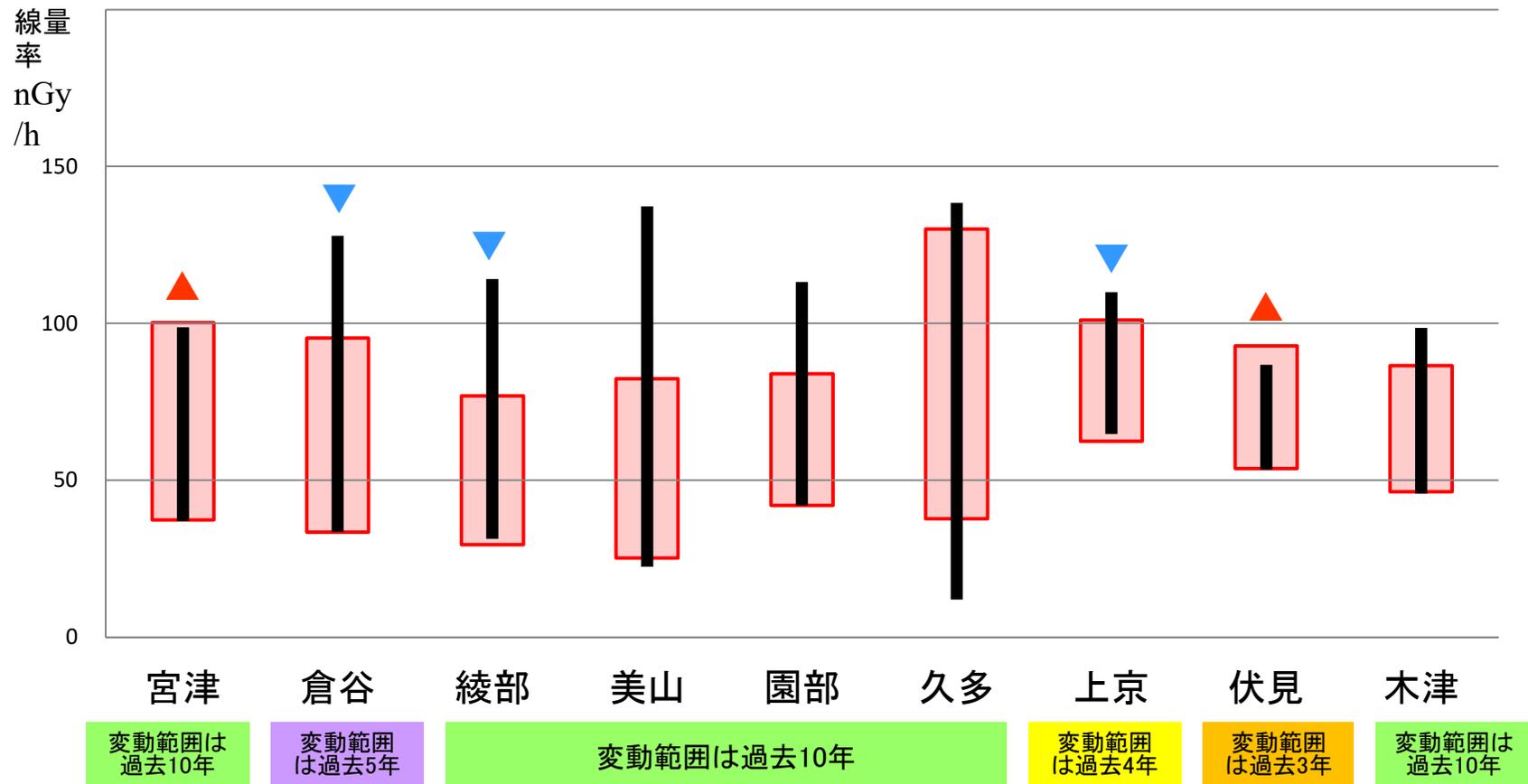
空間放射線 空気吸収線量率 測定結果（令和5年度）／府独自



赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

空間放射線 空気吸収線量率 測定結果（令和5年度）／水準

水準調査局



赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
 三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

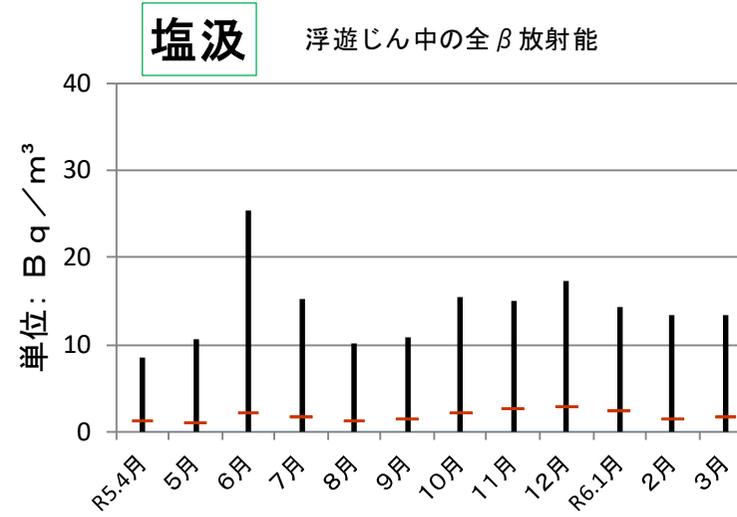
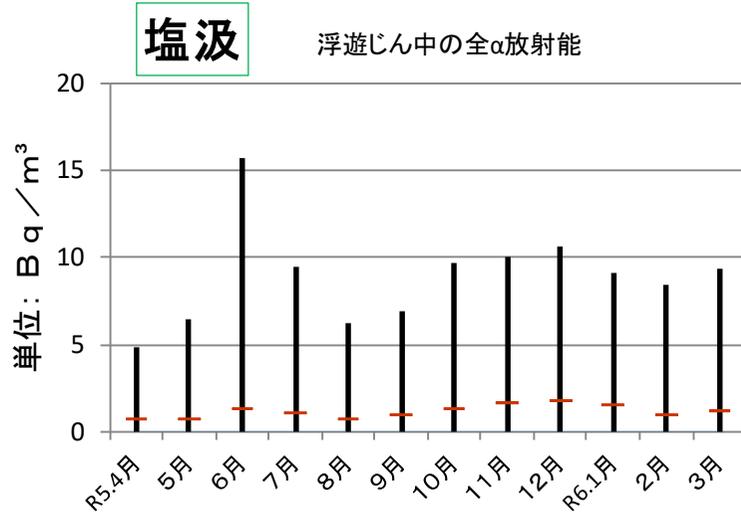
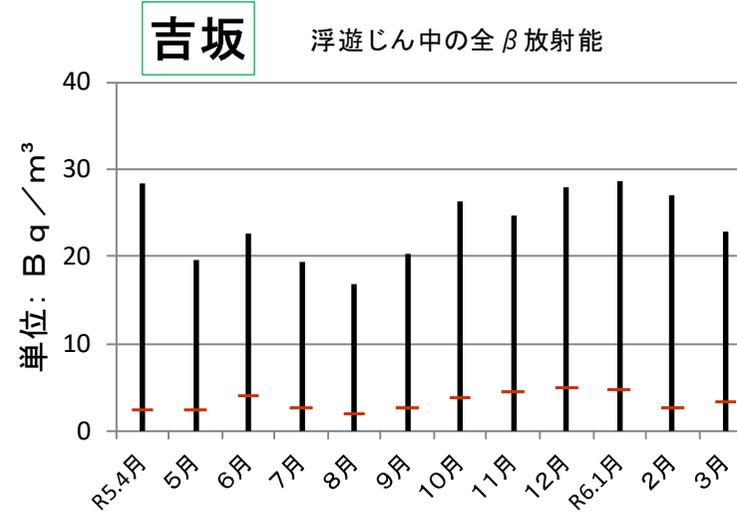
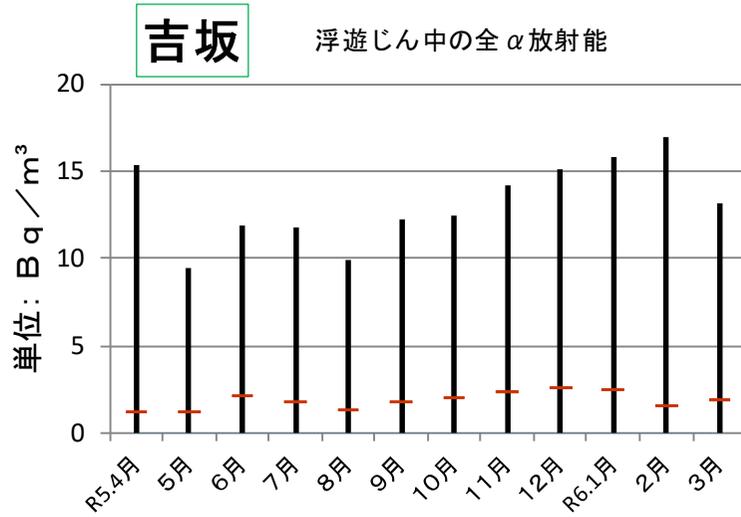
浮遊じん中の全 α 、全 β 放射能 測定結果

- 各測定所の測定値は、測定機器の更新に伴い測定方法等を変更したが、他県と同程度でした。

(資料3-2、p.12)

浮遊じん中の放射能測定結果（令和5年度）

資料3-2 p.12



横棒(—): 月平均値。縦棒(|): 各月の最大～最小。

令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）

環境放射線測定結果

- ① 測定所での監視
 - 1. 空間放射線空気吸収線量率
 - 2. 浮遊じん中の全 α ・ β 放射能

- ② 環境放射能測定車、環境放射線調査車による監視
 - 1. 環境放射能測定車による測定
 - 2. 環境放射線調査車による測定

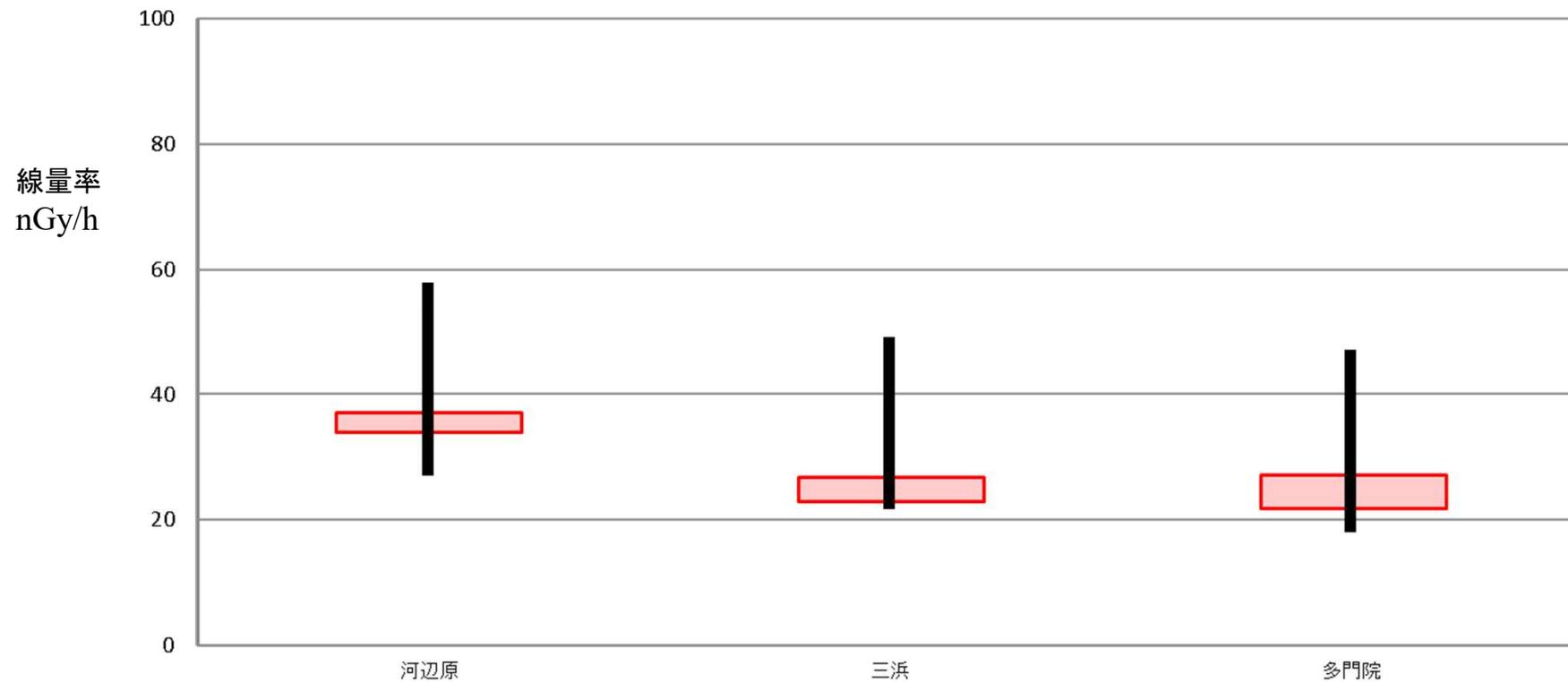
- ③ ガンマ線放出核種分析、トリチウム、プルトニウム、ストロンチウム分析結果

環境放射能測定車による測定結果

- 空間放射線空気吸収線量率
→可搬型モニタリングポストで測定。各地点の測定値は、過去の変動の範囲内。
- 空間 γ 線スペクトル
→人工核種は、多門院及び三浜で各1回Cs-137が検出された。その他は全て計数誤差の3倍以下。

(資料3-2 p.13)

環境放射能測定車 線量率測定結果



赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)。
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。 可搬型モニタリングポストで測定。

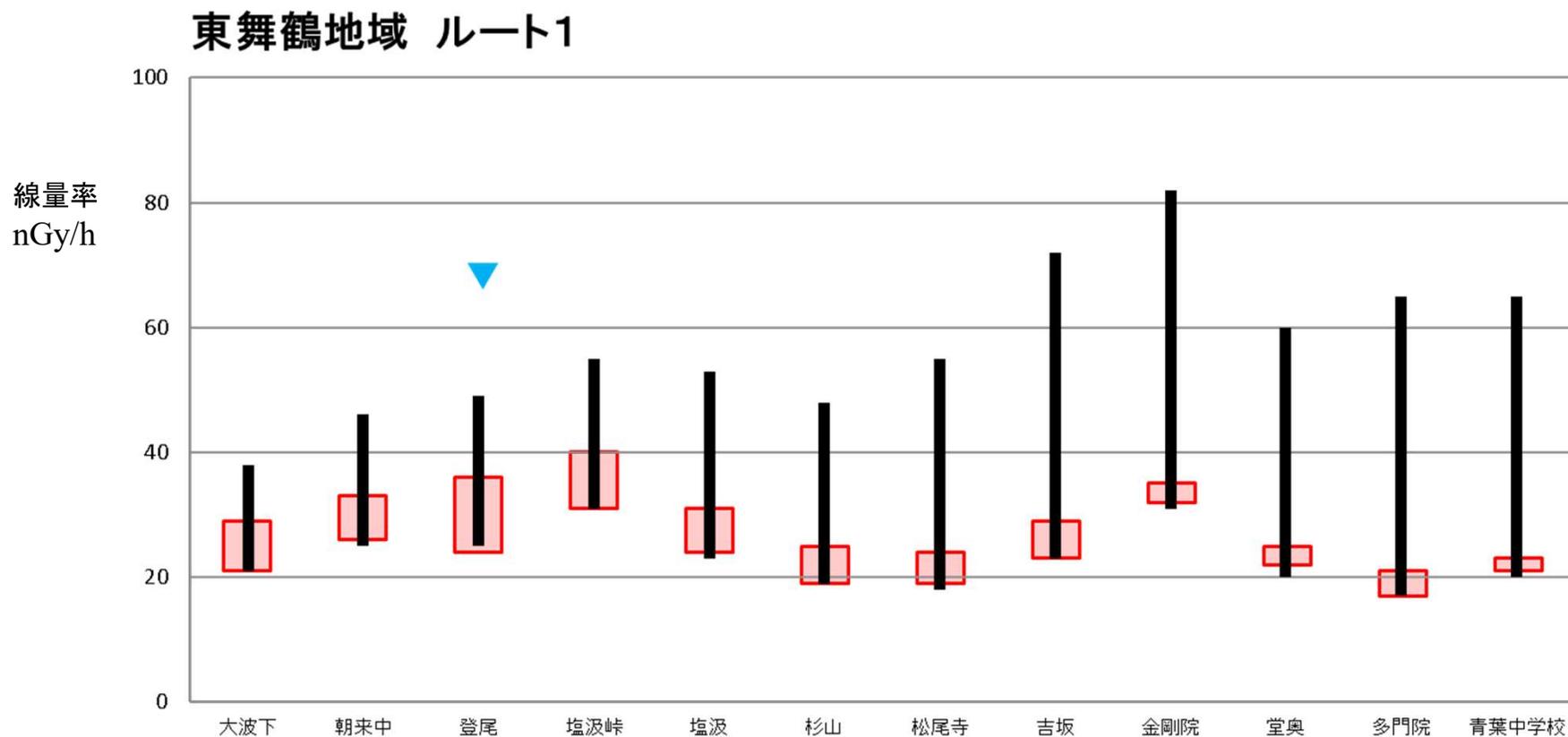
環境放射線調査車による測定結果

- 定点での測定
→17地点で過去の変動範囲超過。
(最大値14、最小値3)

ルート走行中の線量率の変化
→従来と同様の傾向。

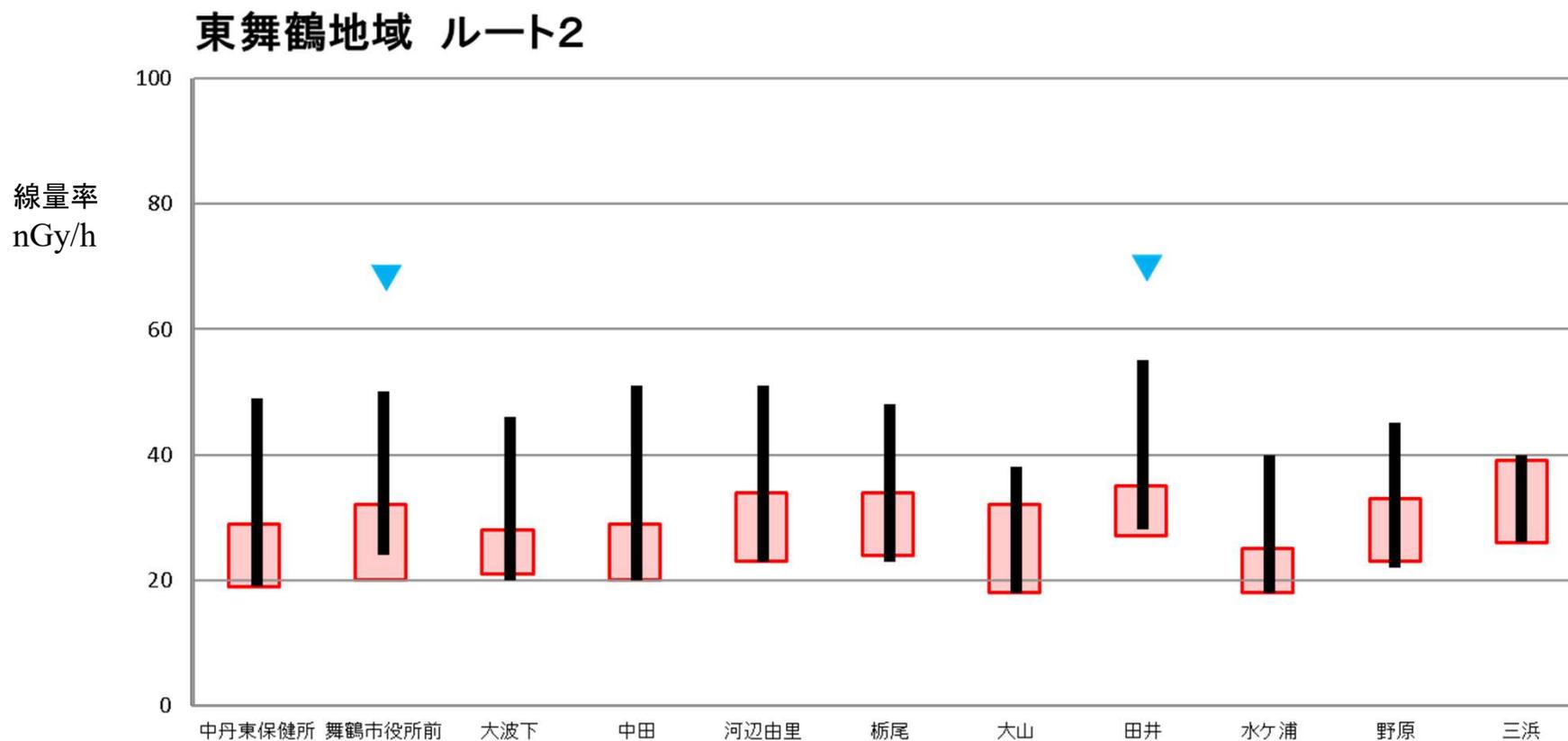
(資料3-2 p.14-17)

環境放射線調査車 線量率測定結果



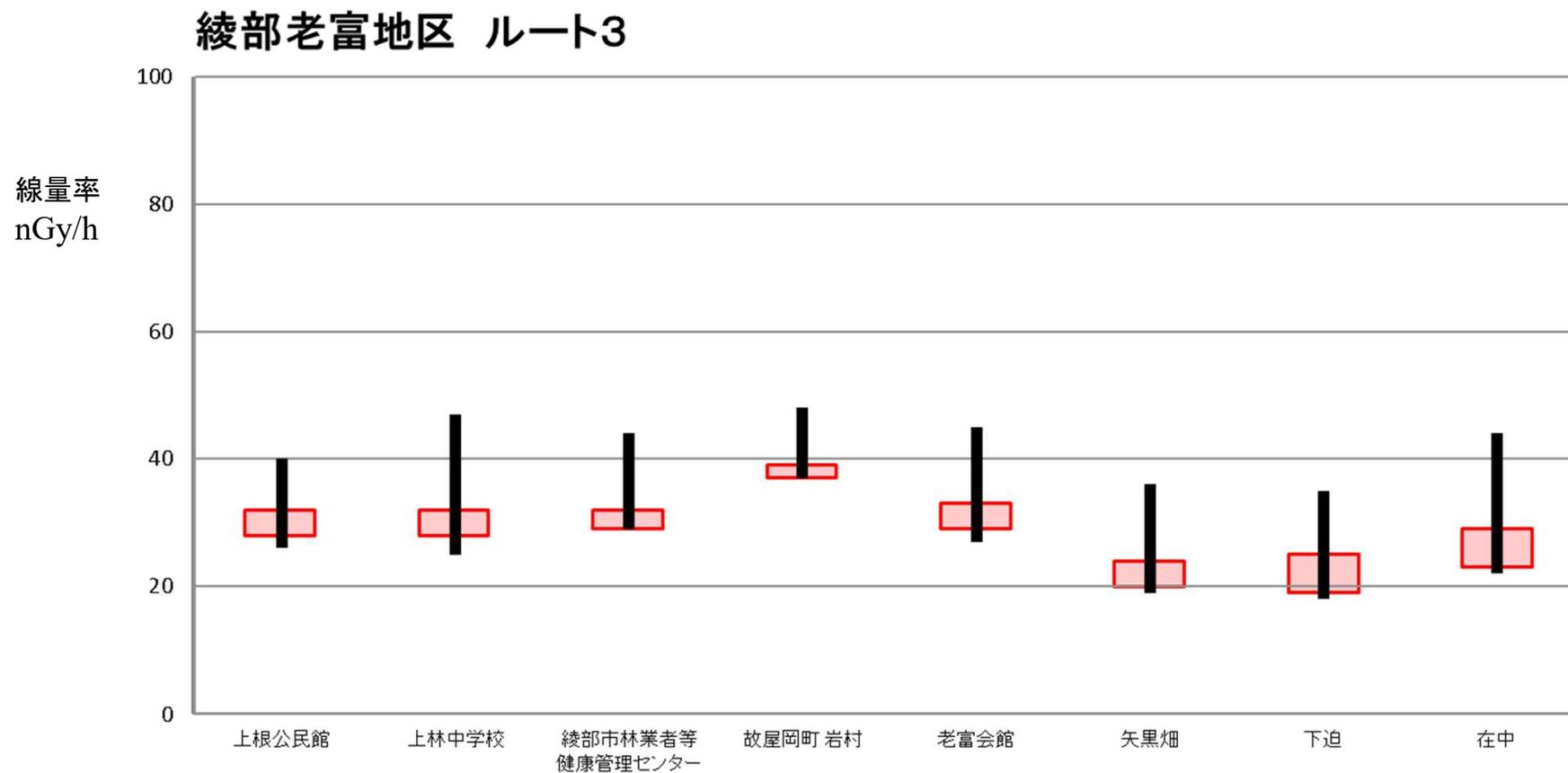
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



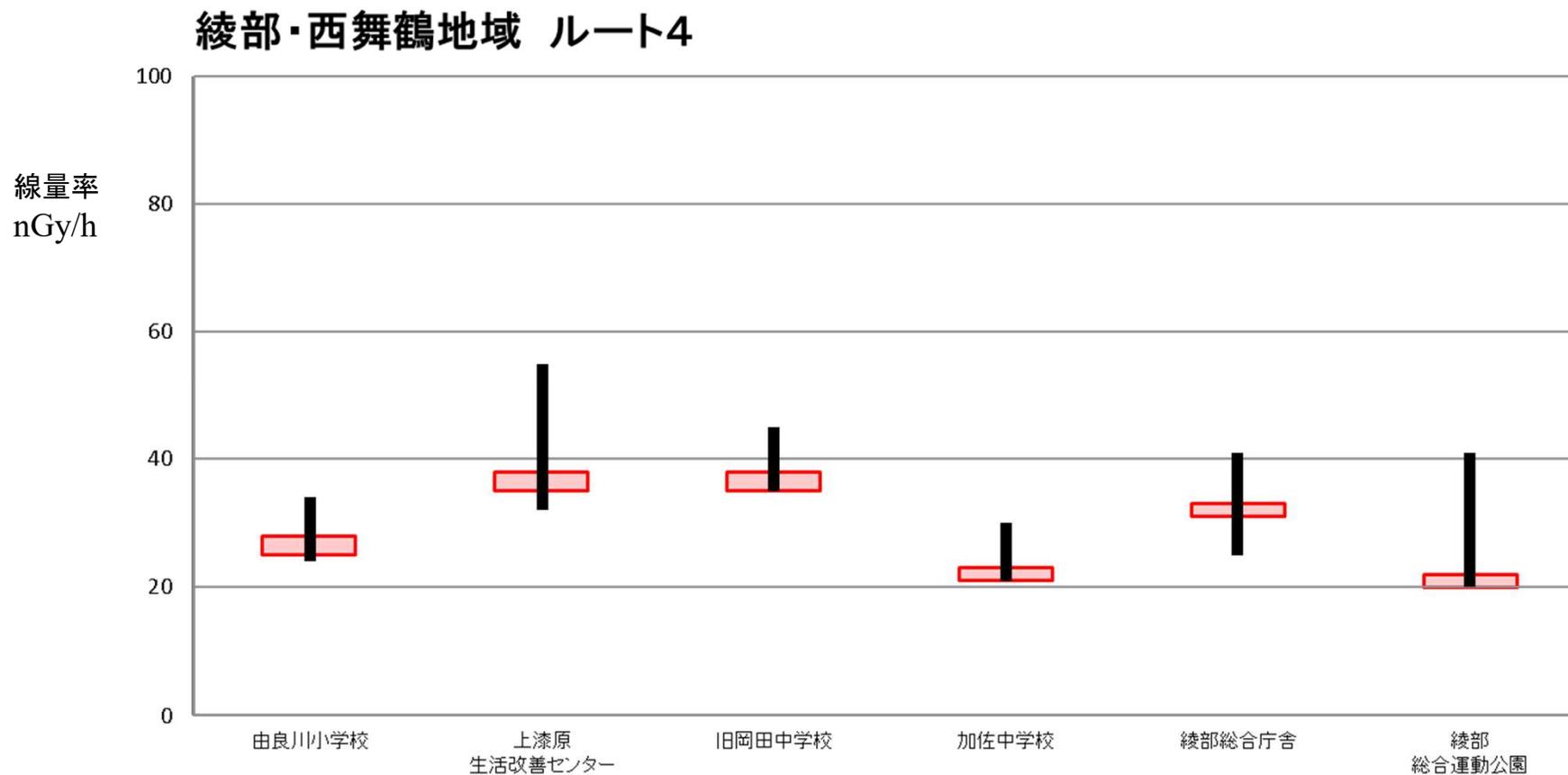
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



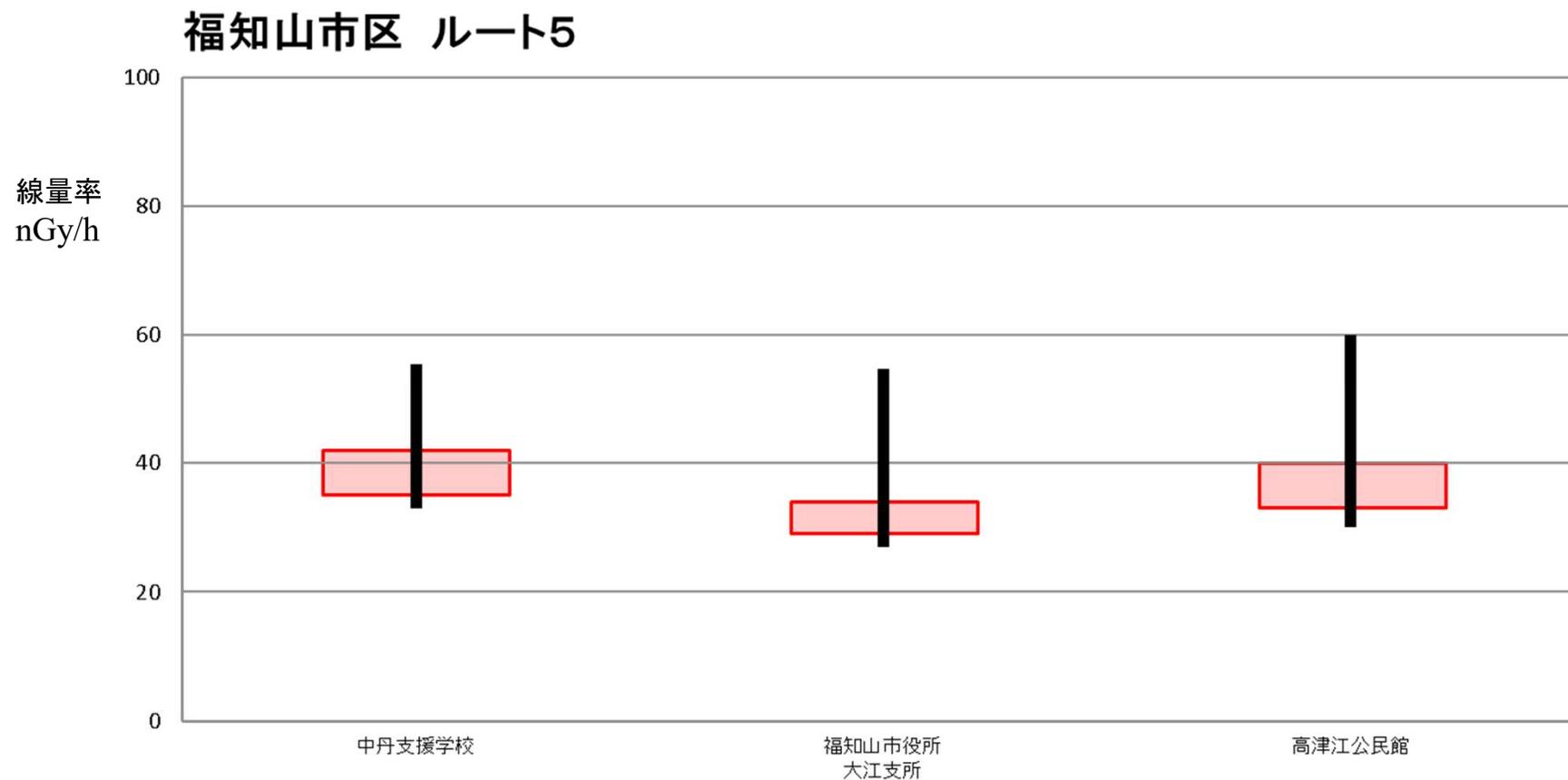
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



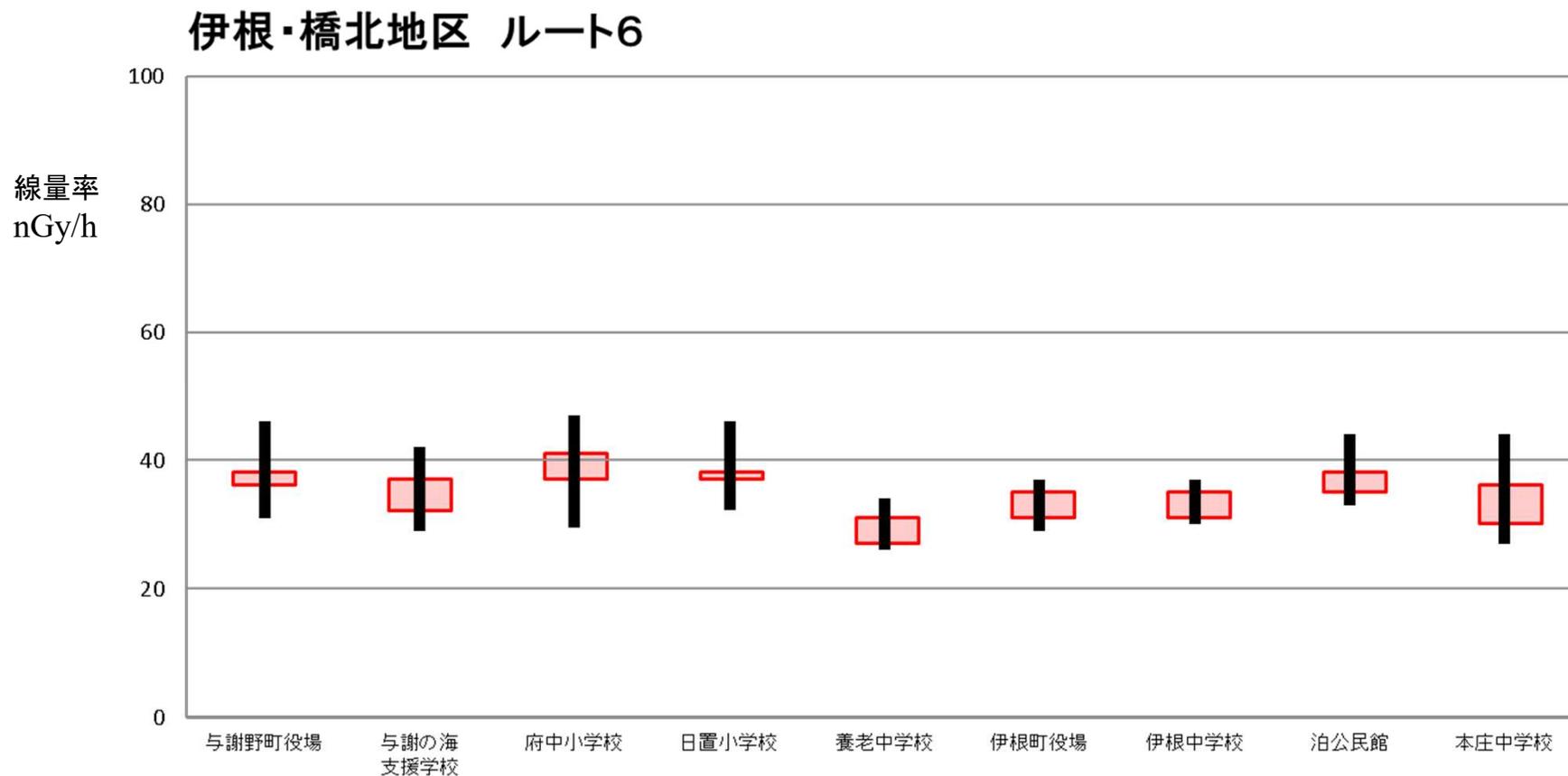
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



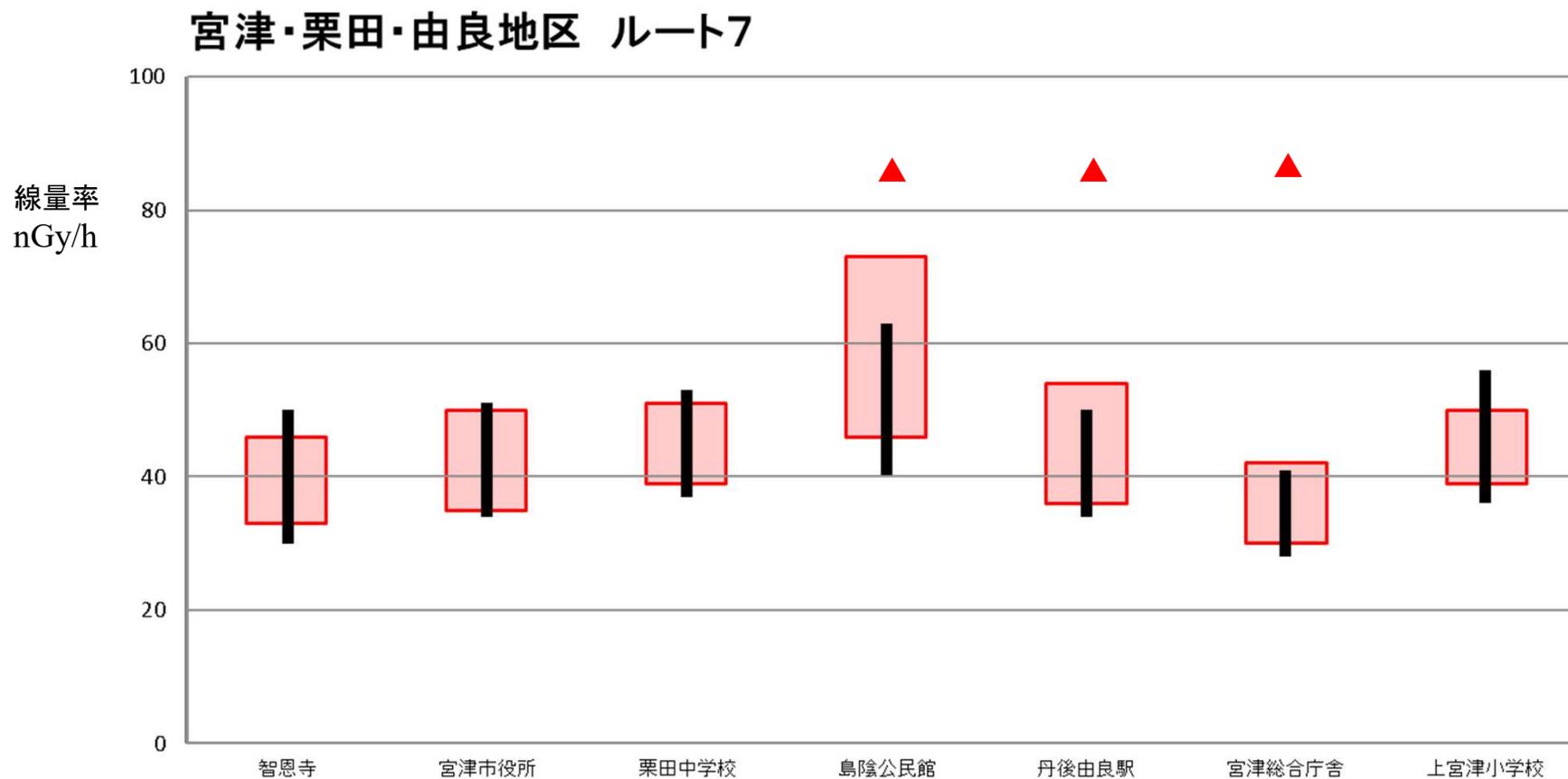
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



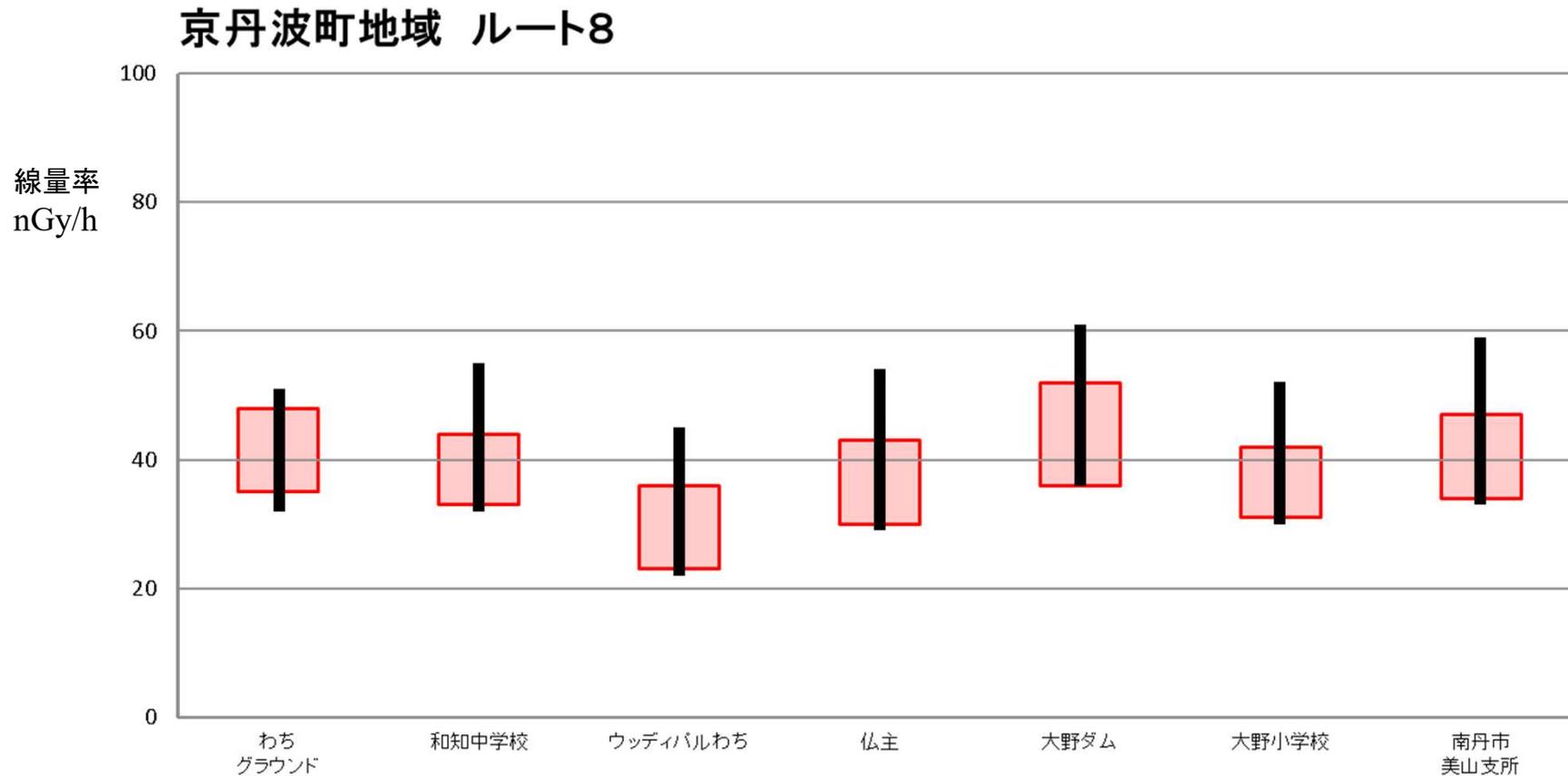
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



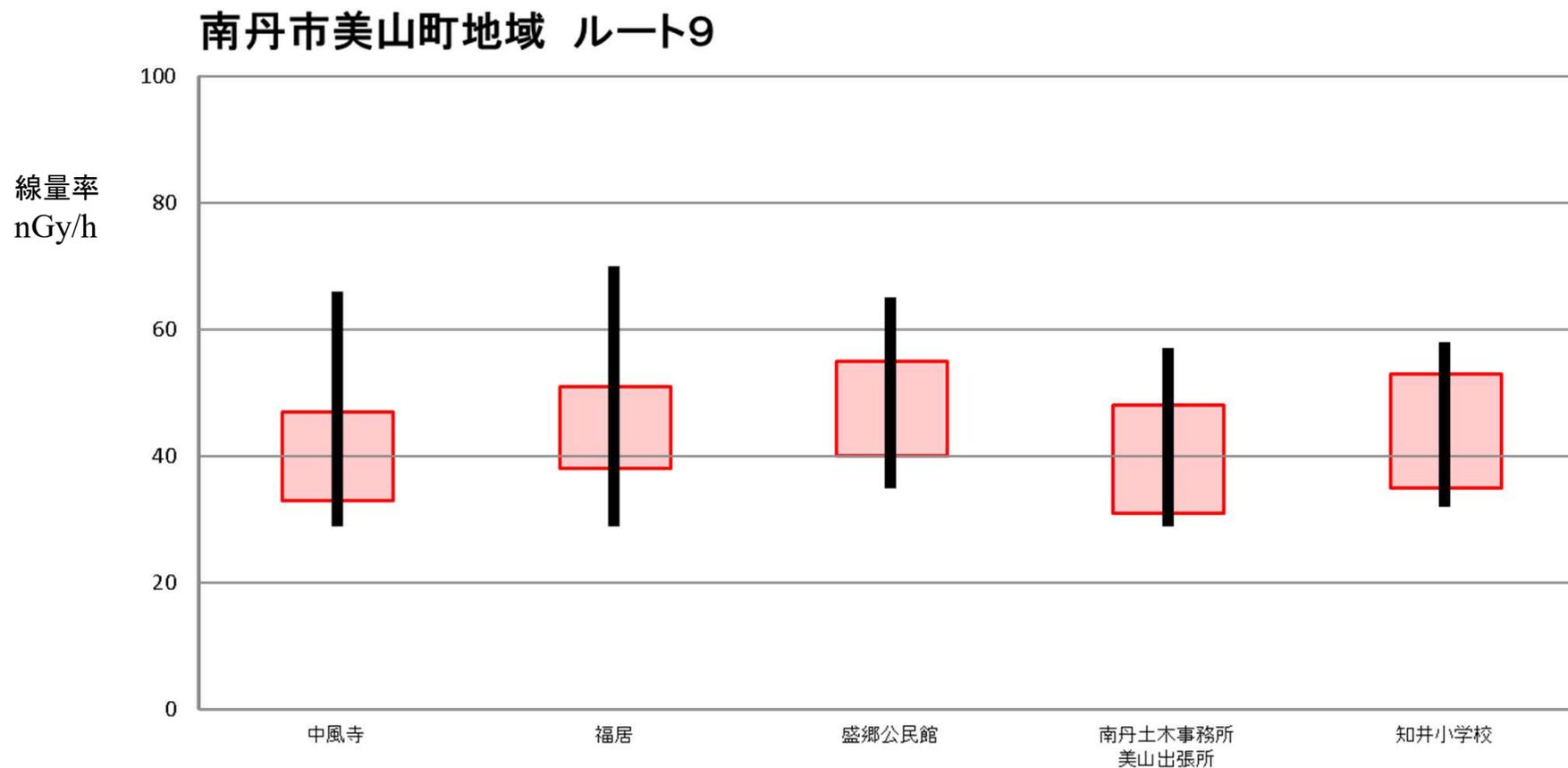
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



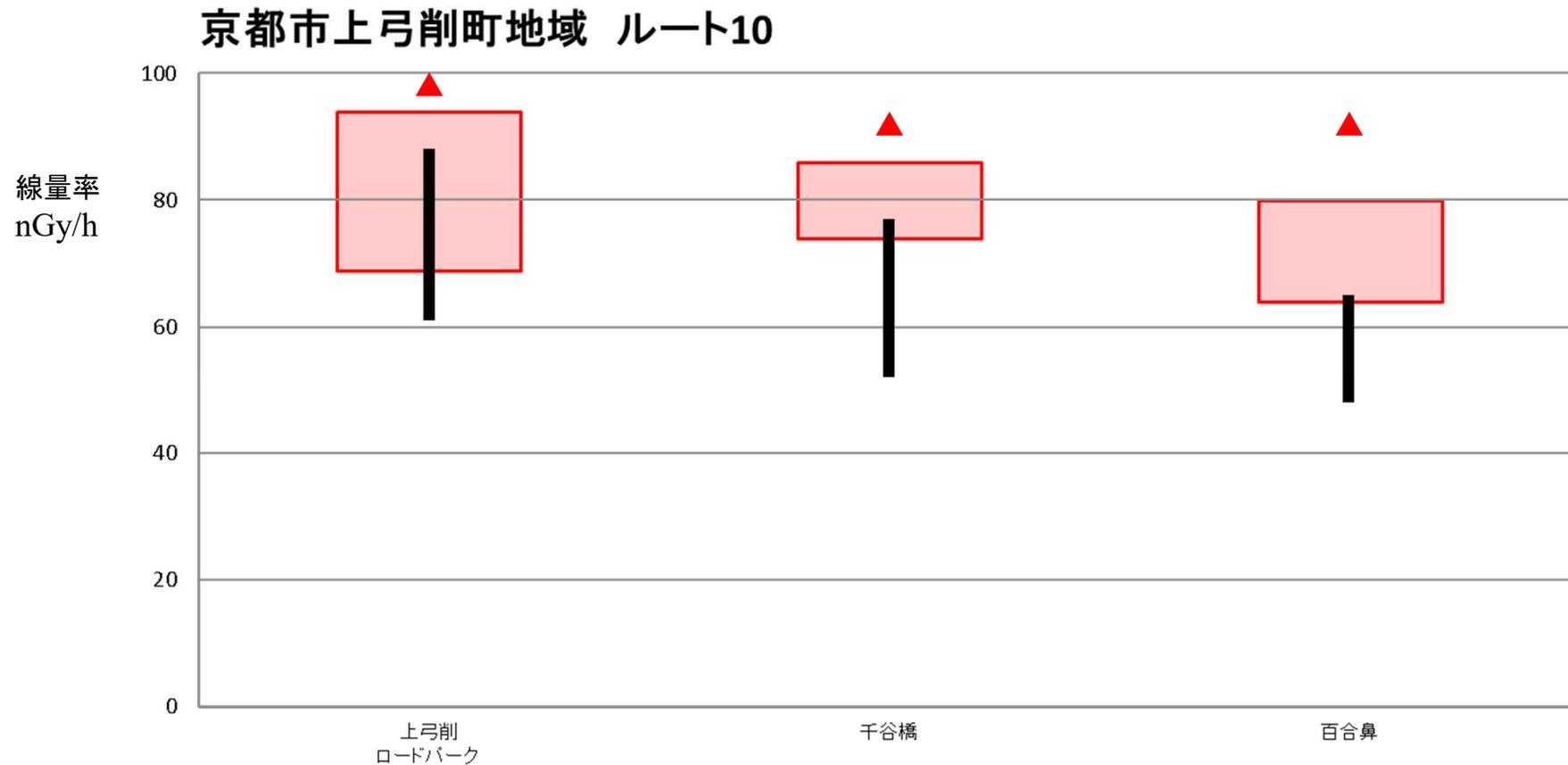
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



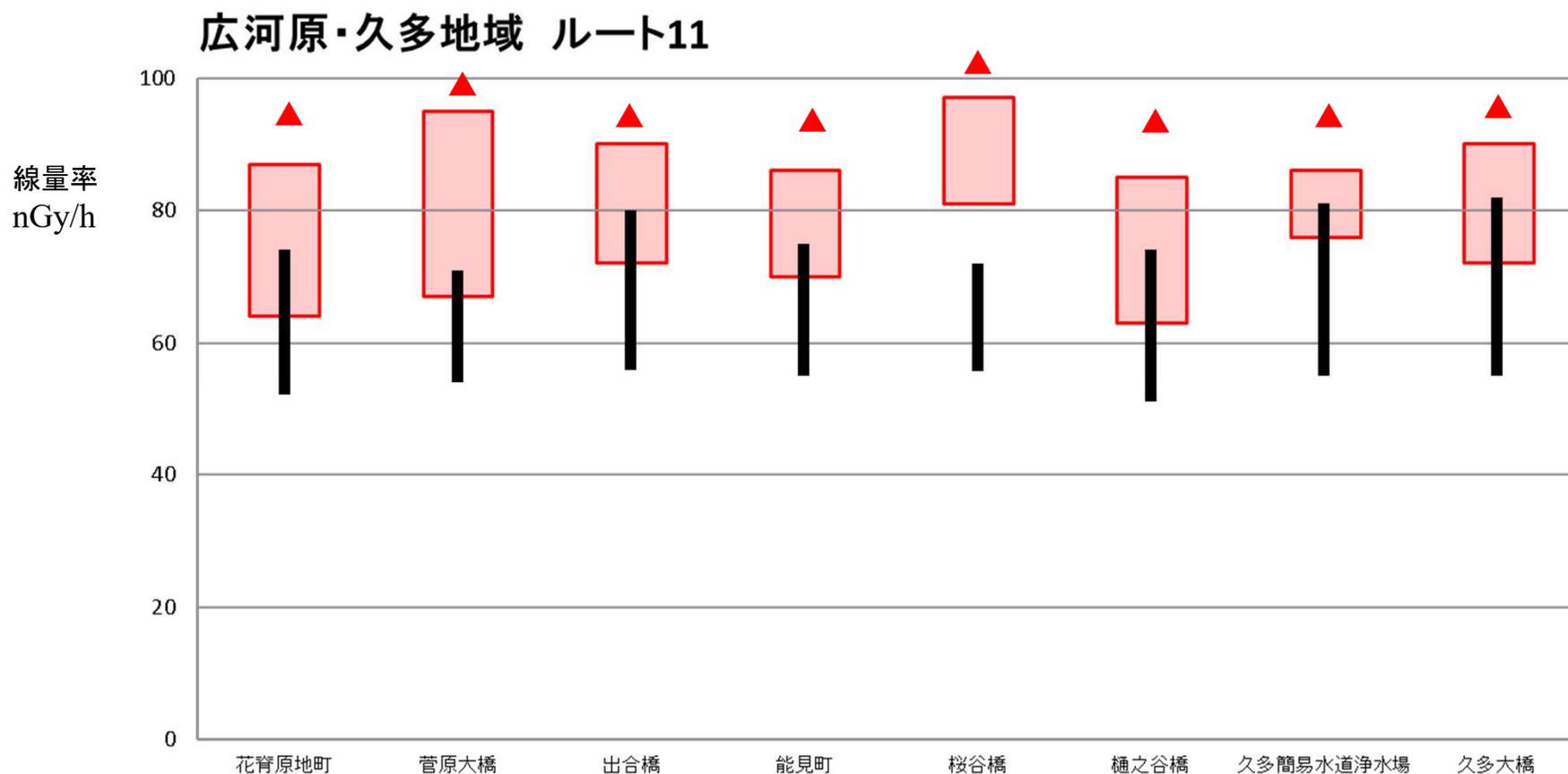
赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去2年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過 NaIシンチレーションサーベイメータで測定。

環境放射線調査車 線量率測定結果



赤長方形(□): 令和5年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去2年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過 NaIシンチレーションサーベイメータで測定。

令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）

環境放射線測定結果

- ① 測定所での監視
 - 1. 空間放射線空気吸収線量率
 - 2. 浮遊じん中の全 α ・ β 放射能
- ② 環境放射能測定車、環境放射線調査車での監視
 - 1. 環境放射能測定車による測定
 - 2. 環境放射線調査車による測定
- ③ ガンマ線放出核種分析、トリチウム、プルトニウム、ストロンチウム分析結果

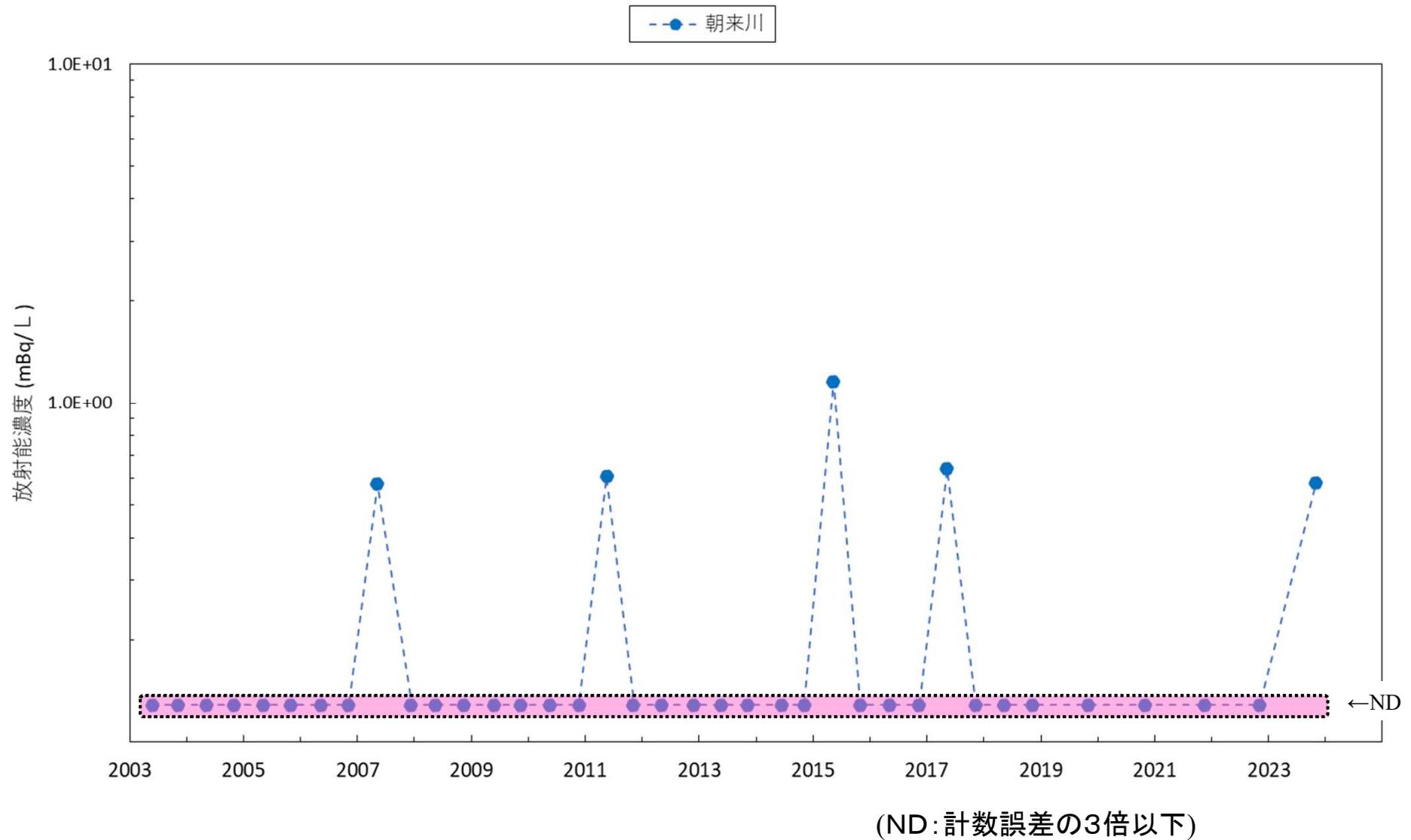
ガンマ線放出核種分析結果

- ▶ 陸水（朝来川）、陸土、玄米、生椎茸、松葉、よもぎ、めばる(かさご)、あじ、うまづらはぎ、いか、まいわし、海底沈積物
→ 過去と同程度のCs-137を検出。
その他
→ 人工放射性核種は計数誤差の3倍以下。

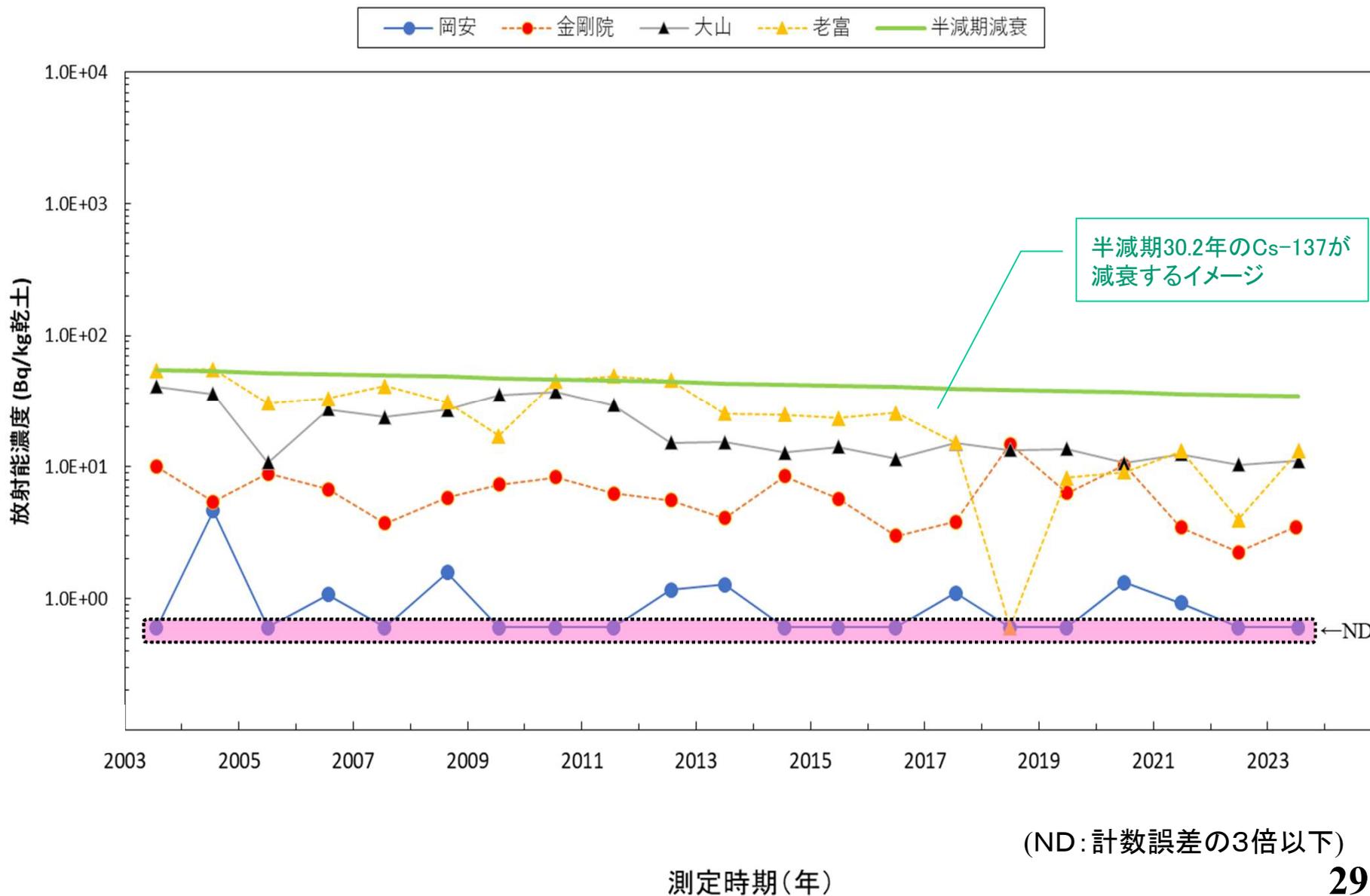
(資料3-2 p.18-27)

ガンマ線放出核種分析結果

陸水（朝来川）中のCs-137の経年変化



ガンマ線放出核種分析結果 陸土中のCs-137の経年変化



ガンマ線放出核種分析結果

資料3-2 p. 23

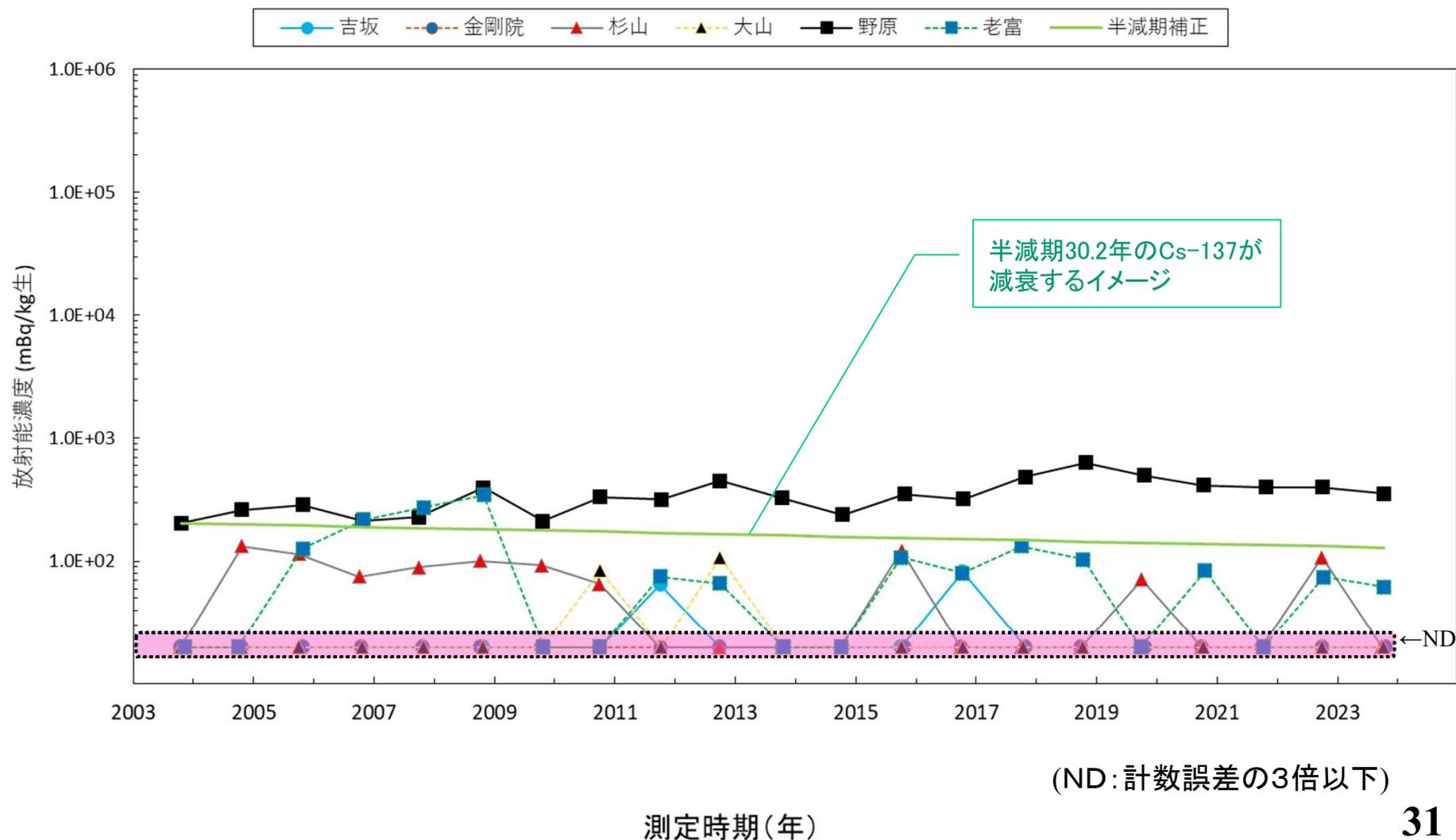
陸土中のCs-137の地点別濃度（5年周期地点）

単位：Bq/kg乾土

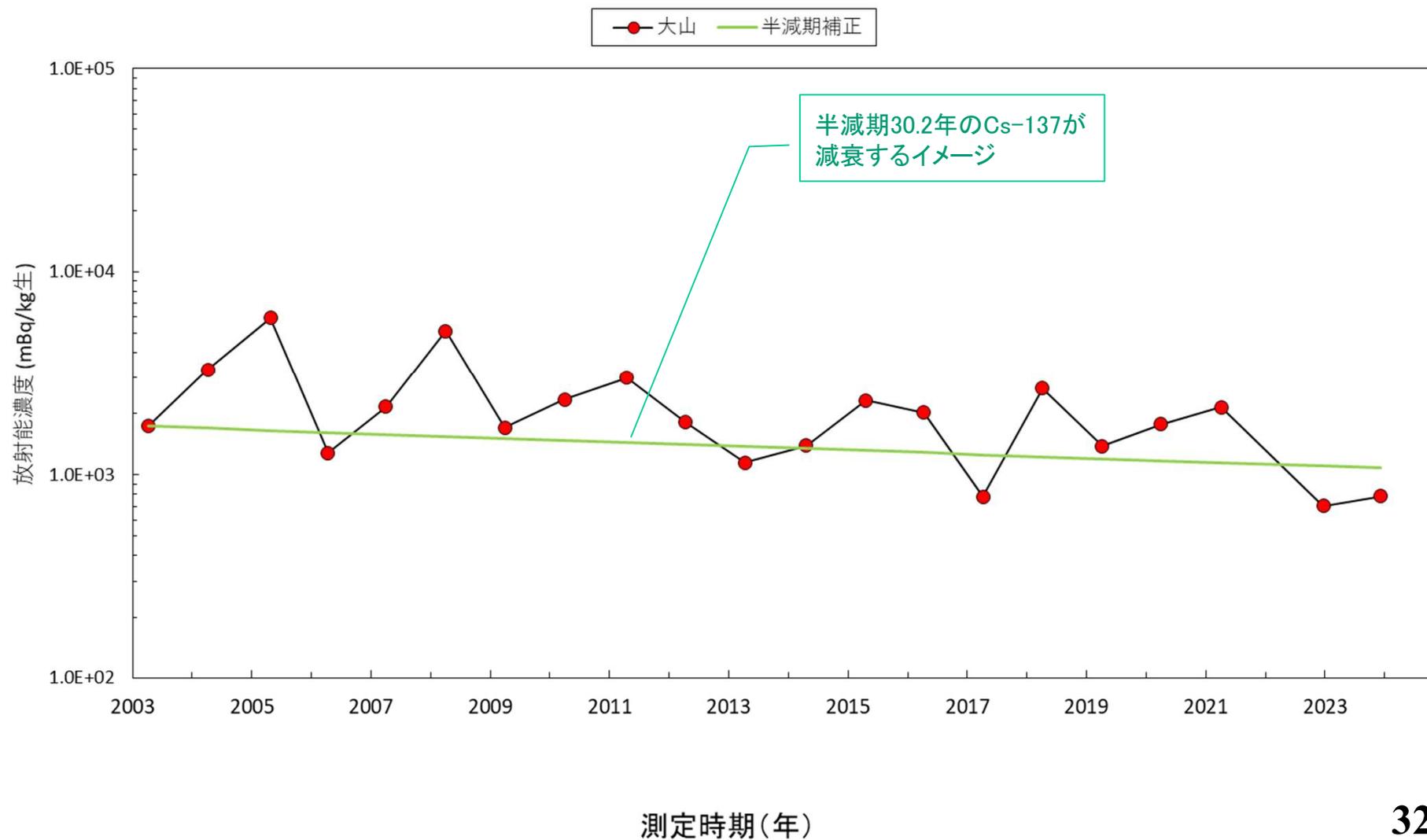
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
広河原	1.4 ± 0.23				
倉梯Ⅱ	2.8 ± 0.25				
知井	ND				
養老	ND				
塩汲		3.5 ± 0.29			
岡安Ⅱ		4.0 ± 0.26			
上司		ND			
老富Ⅱ		9.5 ± 0.34			
吉坂Ⅱ			2.1 ± 0.23		
八津合			1.8 ± 0.27		
島			ND		
地頭				6.1 ± 0.33	
相生				1.7 ± 0.22	
上杉				2.3 ± 0.26	
日出				1.6 ± 0.25	
本庄					1.8 ± 0.22
三浜					ND
神崎					ND

注1：測定値N±△Nにおいて△Nは計数誤差であり、N≦3×△Nのとき「検出限界以下」であるとし、「ND」で表わしている。

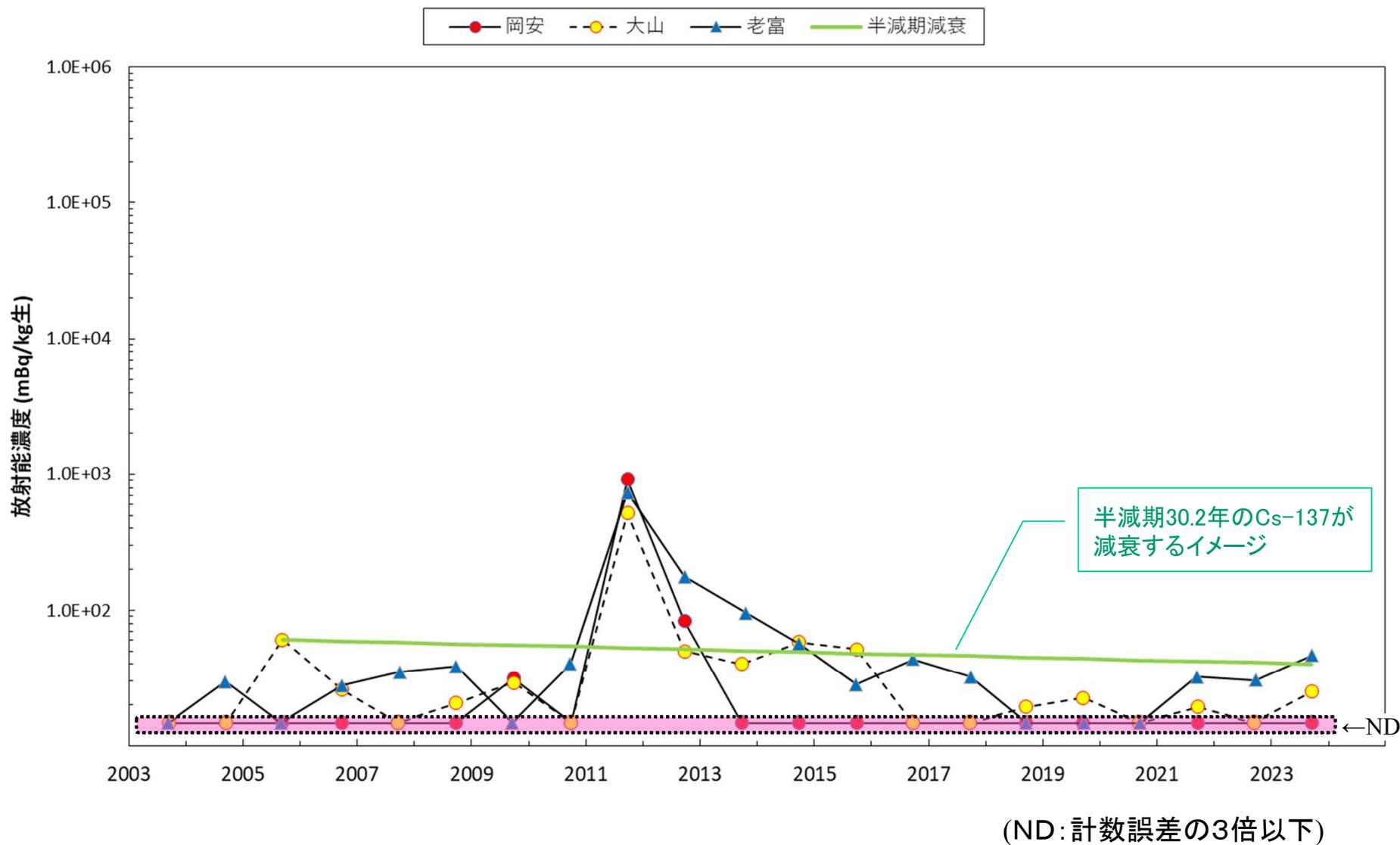
ガンマ線放出核種分析結果 玄米中のCs-137の経年変化



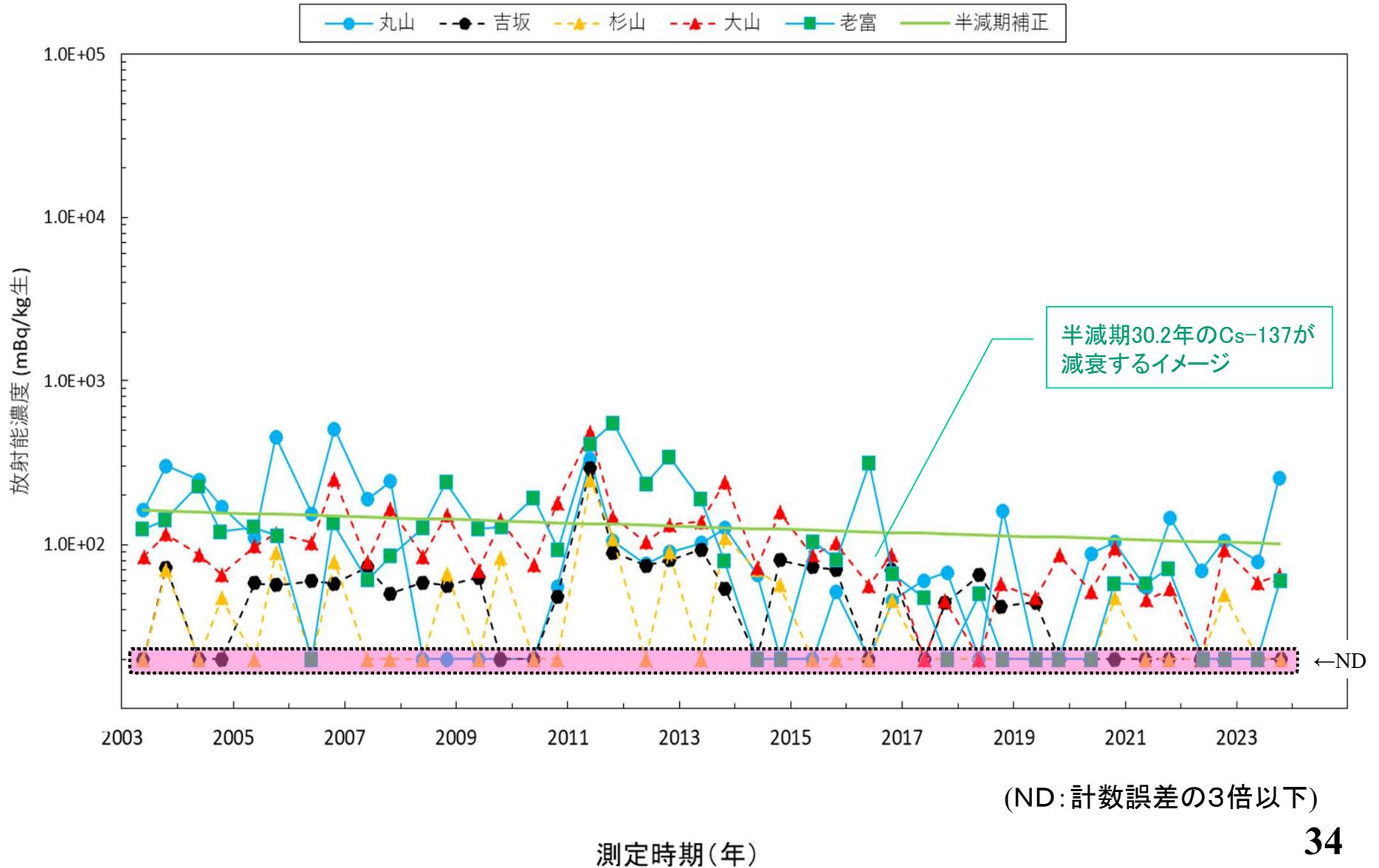
ガンマ線放出核種分析結果 生椎茸中のCs-137の経年変化



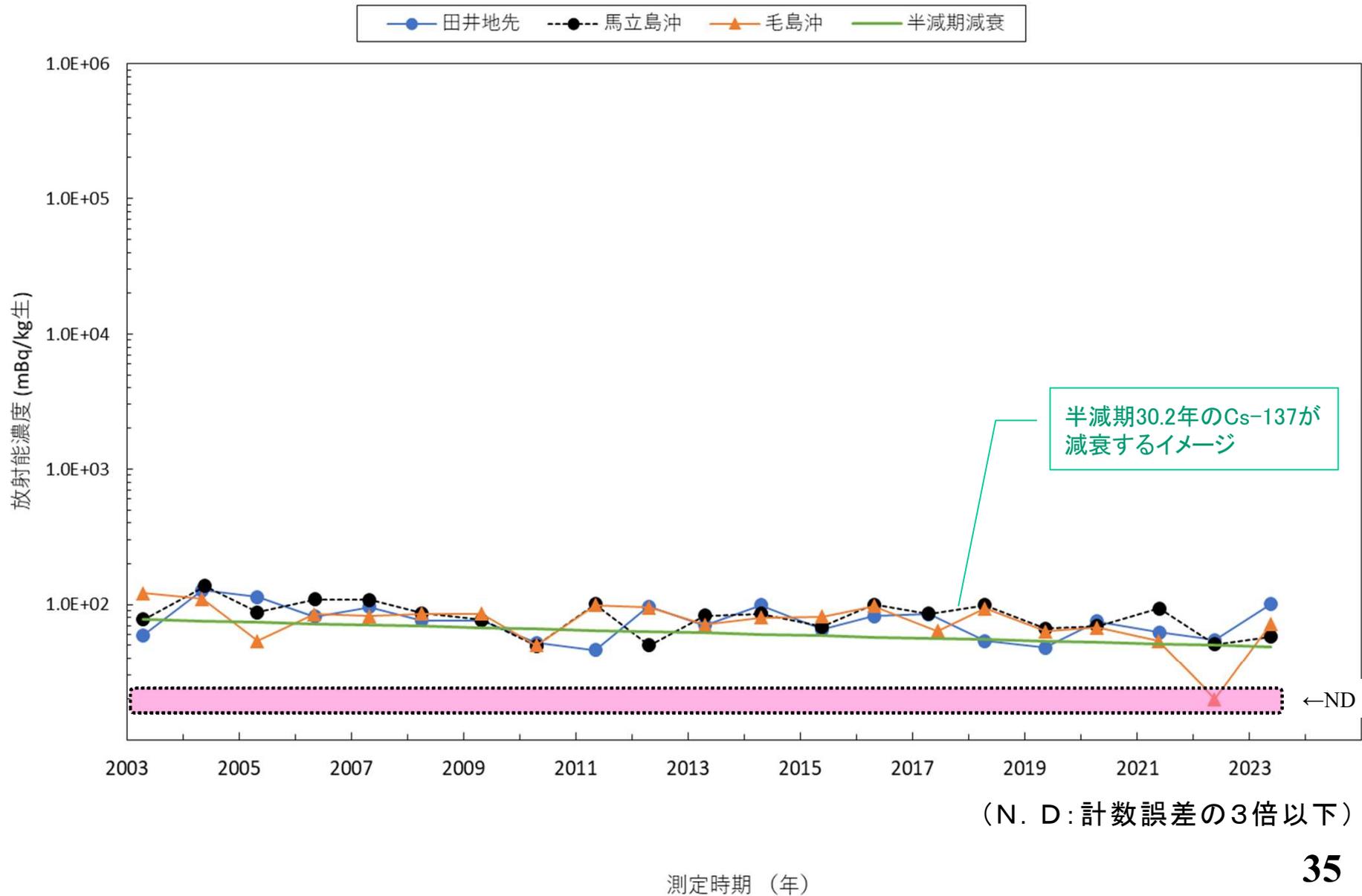
ガンマ線放出核種分析結果 松葉中のCs-137の経年変化



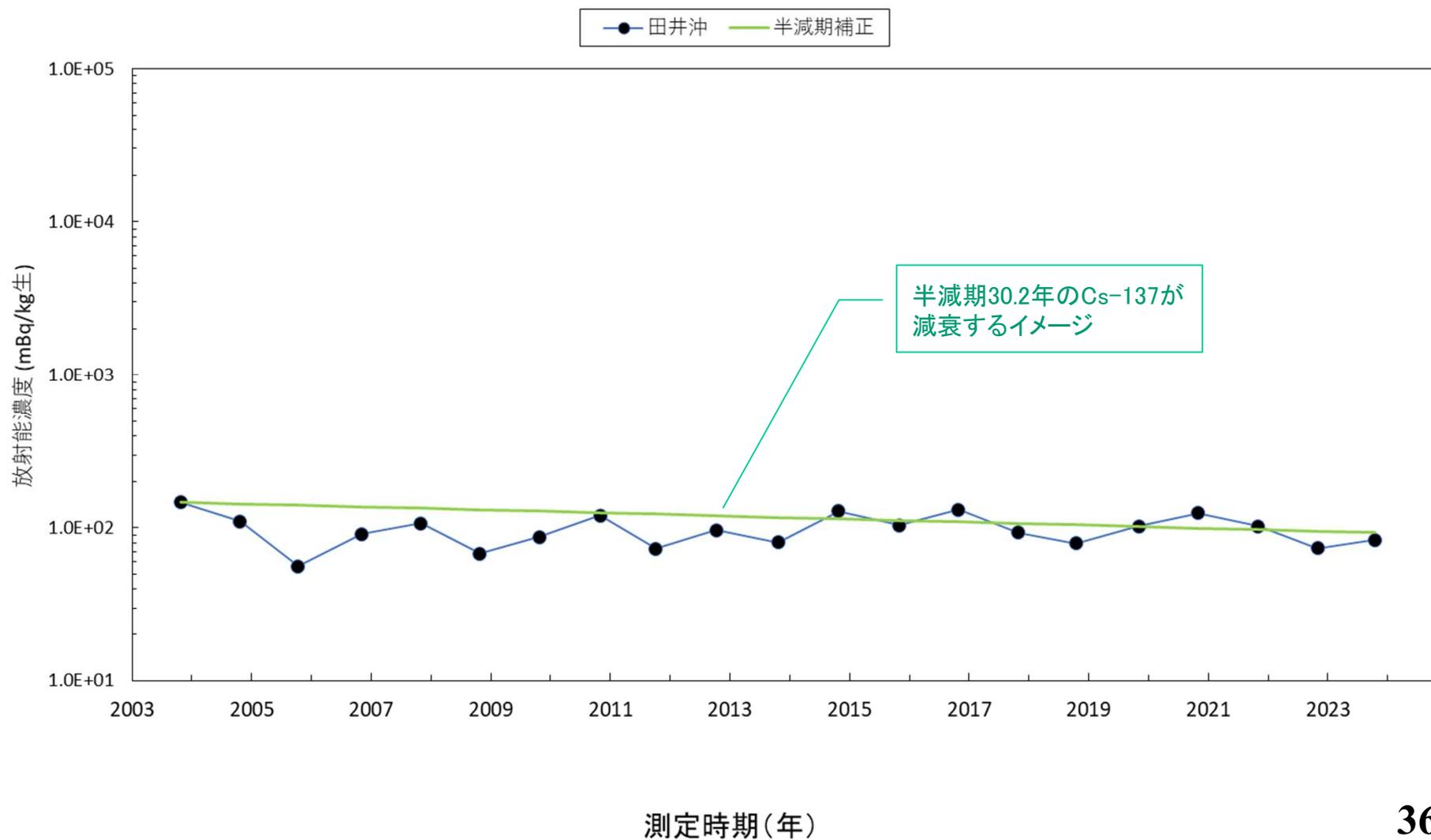
ガンマ線放出核種分析結果 よもぎ中のCs-137の経年変化



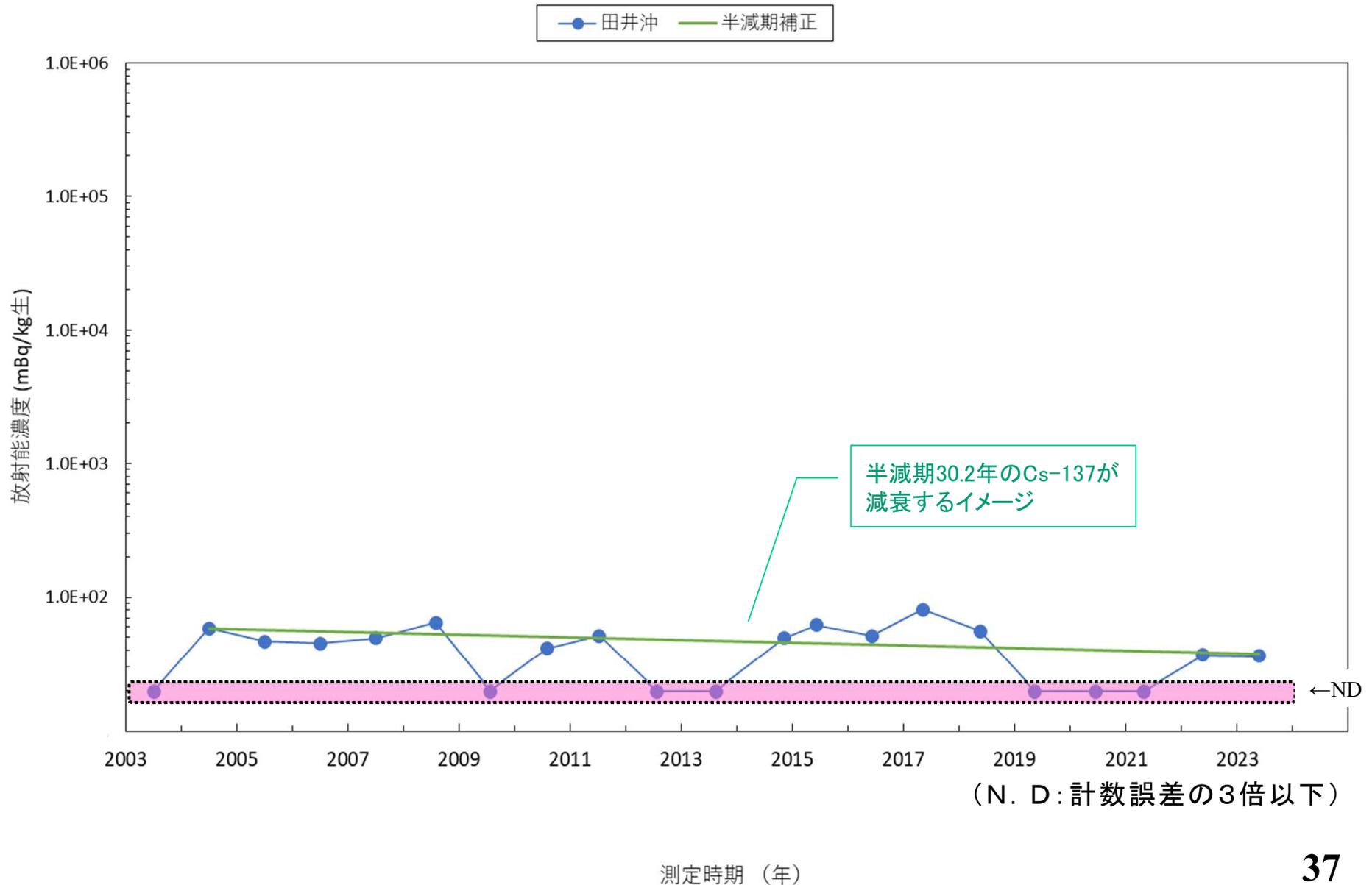
ガンマ線放出核種分析結果 めばる中のCs-137の経年変化



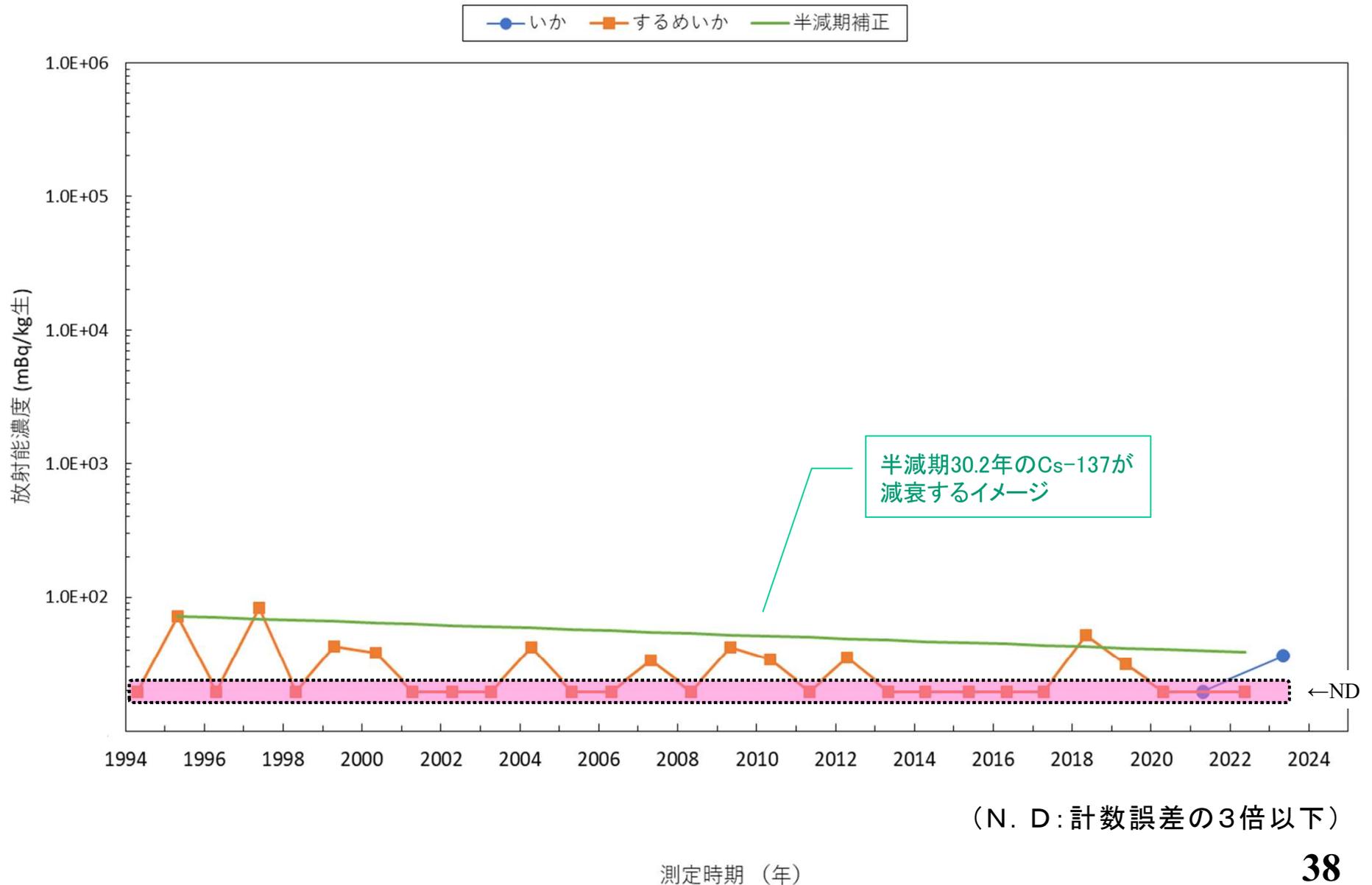
ガンマ線放出核種分析結果 あじ中のCs-137の経年変化



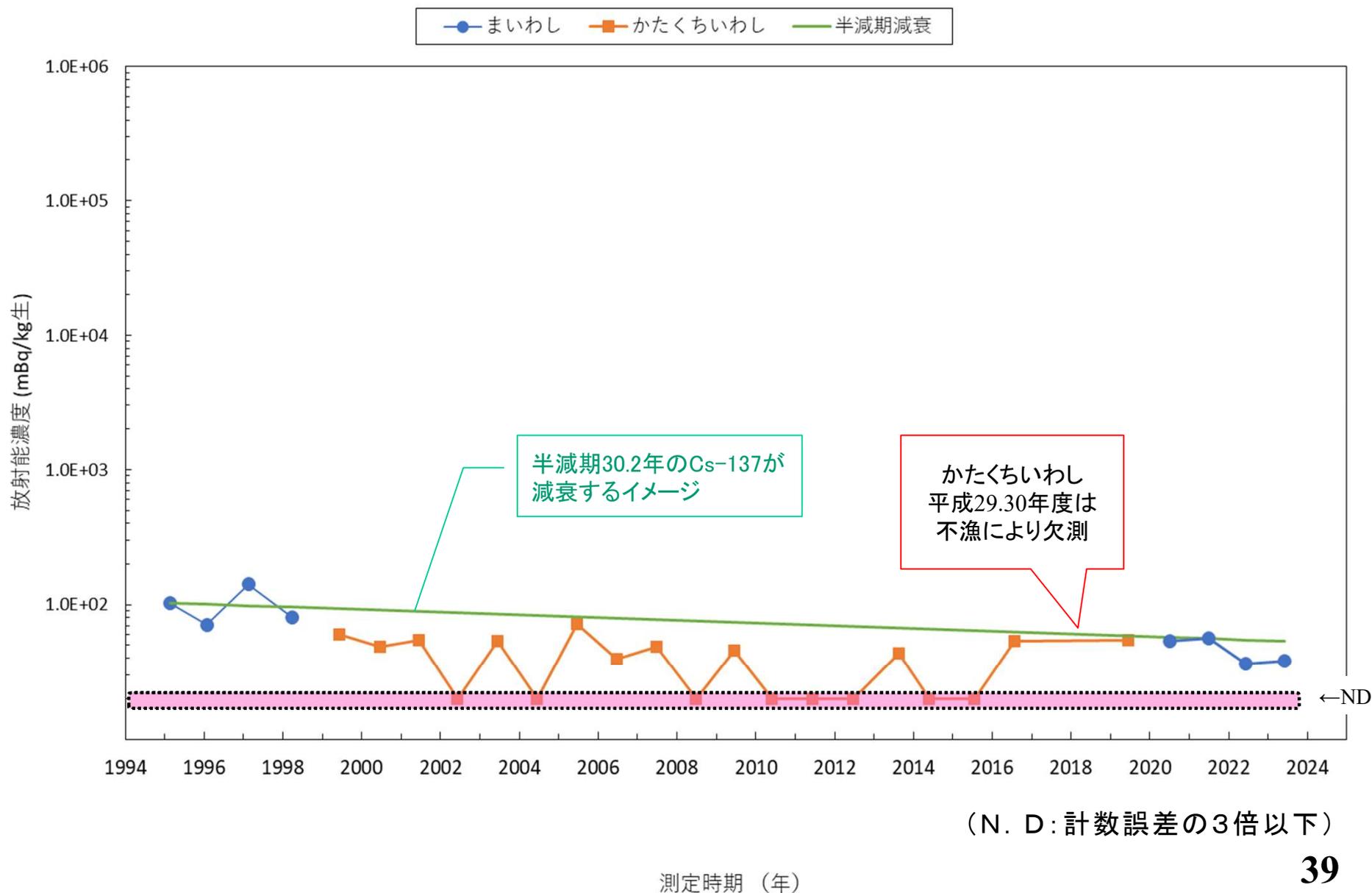
ガンマ線放出核種分析結果 うまづらはぎ中のCs-137の経年変化



ガンマ線放出核種分析結果 いか中のCs-137の経年変化

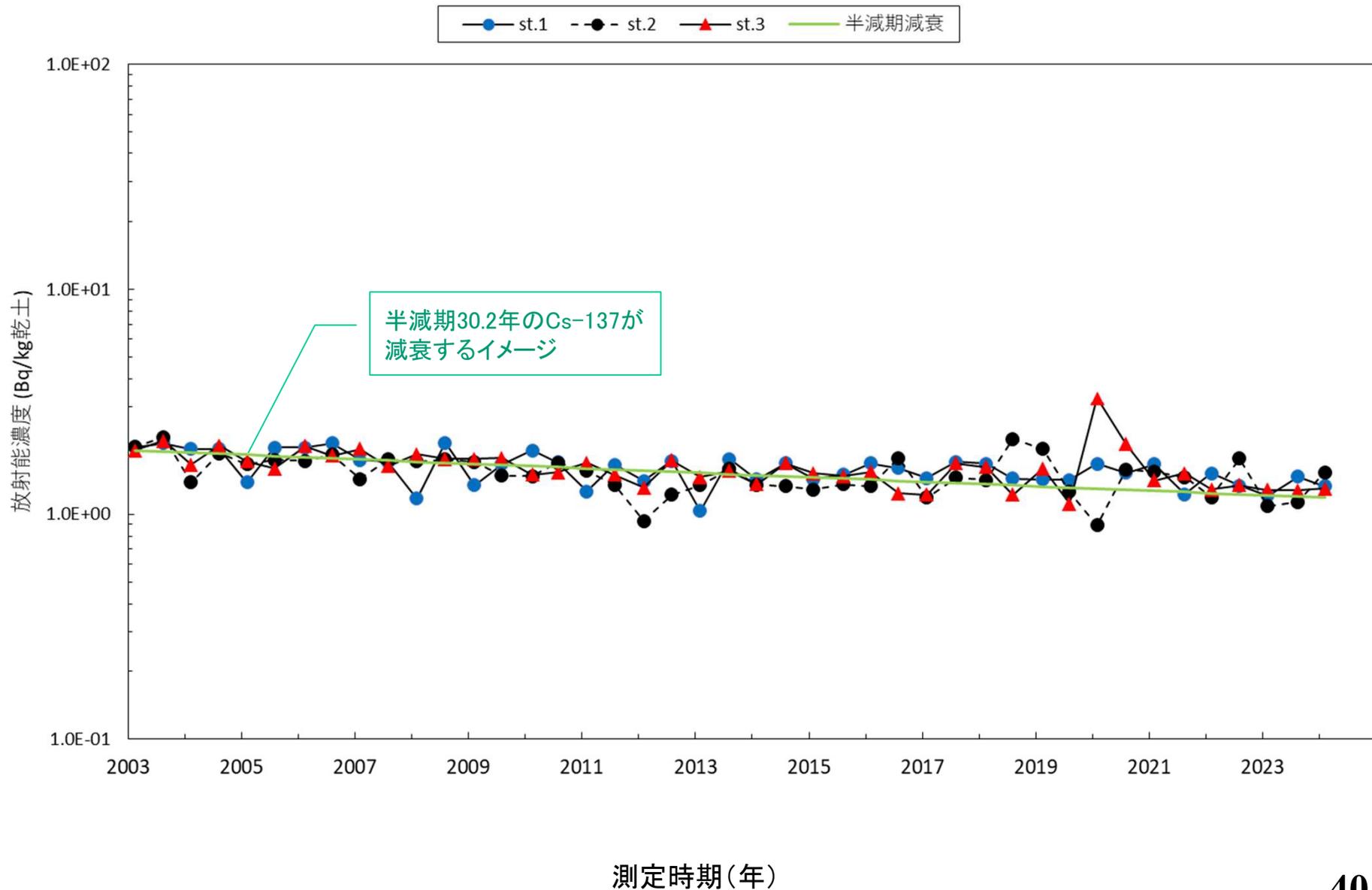


ガンマ線放出核種分析結果 いわし類中のCs-137の経年変化



ガンマ線放出核種分析結果 海底沈積物中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 27



ガンマ線放出核種分析結果

- 放射性ガス状ヨウ素
すべての測定で計数誤差の3倍以下であった。

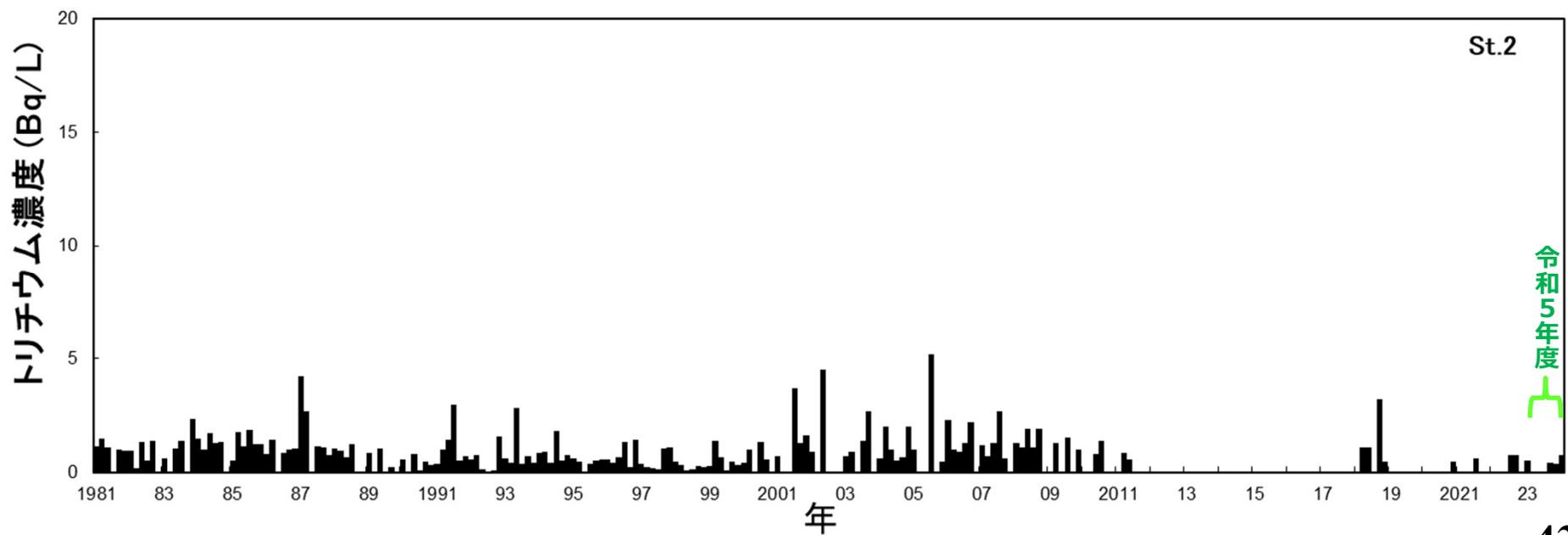
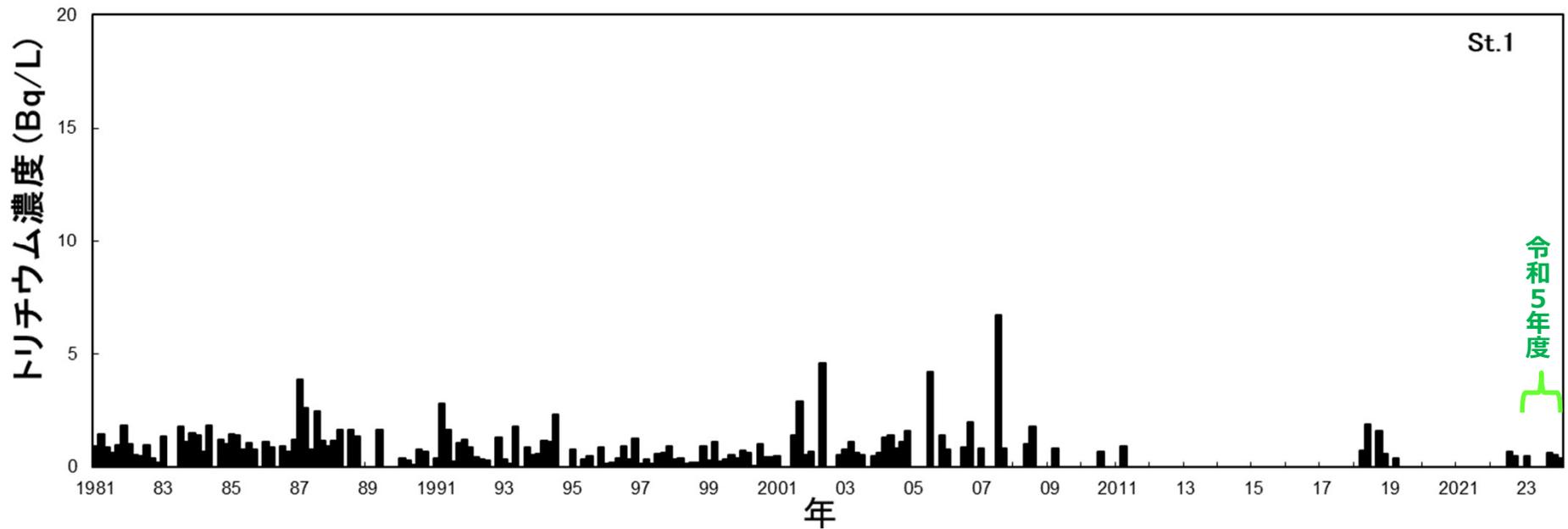
(資料3-2 p.28)

トリチウム分析結果

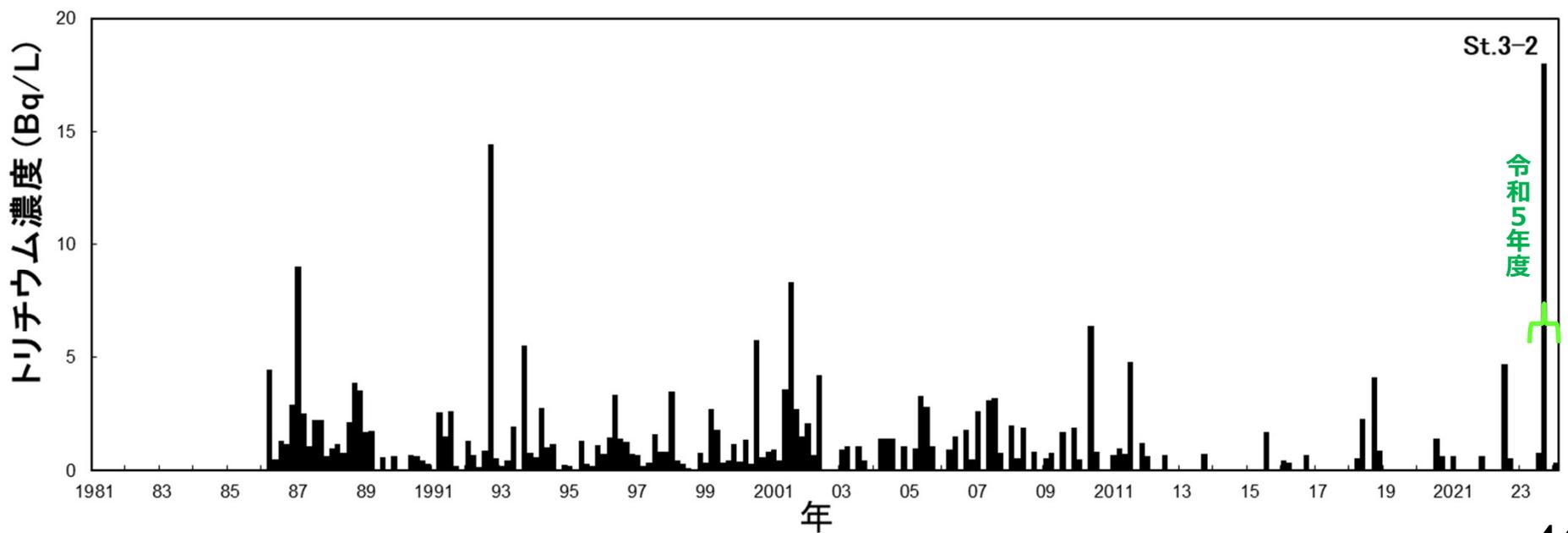
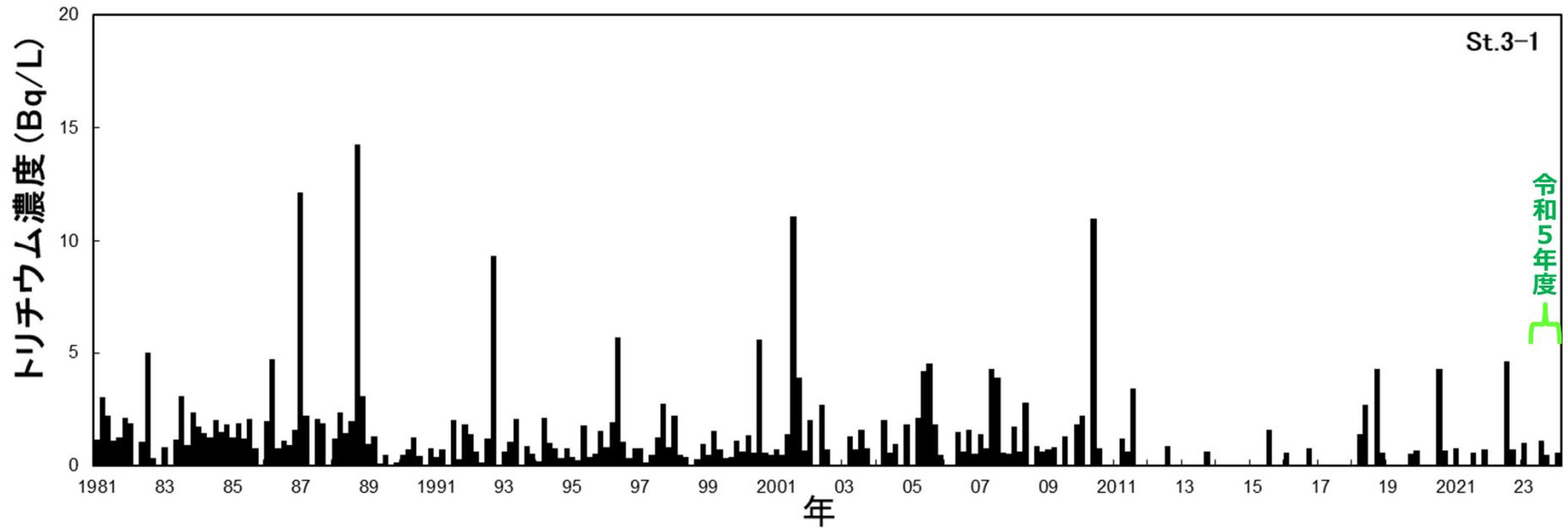
- 10月採取の海水St.3はSt. 1～3における過去10年間の変動範囲を超えて検出
- その他の海水及び陸水から検出されたトリチウムはいずれもSt. 1～3における過去10年間の変動の範囲内であった。

(資料3-2 p.29)

海水中のトリチウム濃度の経年変化 資料3-2 p. 29



海水中のトリチウム濃度の経年変化 資料3-2 p. 29



プルトニウム[※]分析結果

- 5年度から実施した試料
陸上3地点中2地点で検出した。

(※)プルトニウム:Pu-238及びPu-239+240)

(資料3-2 p.30)

ストロンチウム-90

- 5年度から実施した試料
陸水4地点とも検出し、
陸土3地点はいずれも検出しなかった。
- その他の試料
過去に検出された程度の濃度か、
計数誤差の3倍以下であった。

(資料3-2 p.31)

被ばく線量の評価

- 自然放射線以外の影響による地域の公衆被ばく線量は、外部被ばく及び内部被ばくを合わせても、1mSv/年はもとより、発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値(50 μ Sv/年)についても十分下回っていた。

令和5年度
(令和5年4月～令和6年3月)

**環境放射線測定結果は
以上のとおりでした。**